The background features several thick, parallel blue diagonal lines that sweep from the top-left towards the bottom-right, creating a sense of movement and depth.

# 意見・要望書

令和3年（2021年）12月10日  
旧第11通学区高等学校教育懇話会

# 目次

1	はじめに	1
2	旧第11通学区内の高等学校の現状と課題	
(1)	旧第11通学区の高等学校の現状	1
(2)	第1期長野県高等学校再編計画以降の動向	2
(3)	中学校卒業生数の推計	4
(4)	流出入等の状況	4
(5)	松本地域(研究部会Ⅰ)	4
(6)	塩尻地域(研究部会Ⅱ)	11
(7)	安曇野地域(研究部会Ⅲ)	15
3	合同部会、住民説明会、量的・質的調査、意見聴取等の結果概要	
(1)	合同部会	25
(2)	住民説明会	26
(3)	量的調査	28
(4)	質的調査	30
4	意見・要望	
(1)	高校の学びのあり方について	36
(2)	高校の配置のあり方について	39
(3)	その他	43
資料		
	開催要綱	45
	構成員名簿	46
	開催経緯	47
	中学卒業生数の推移	50
	流出入の状況	51
	合同部会 報告 [まとめ]	52
	「都市部存立校」と「中山間地存立校」について	53

## 1 はじめに

旧第 11 通学区高等学校教育懇話会（以下、懇話会）は、長野県教育委員会が定めた「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」にもとづき県教育委員会の要請により設置し、令和元年（2019 年）12 月 16 日の第 1 回会議以来、7 回の議論を重ねてきた。懇話会では研究部会において「松本」「塩尻」「安曇野」の各地区の高等学校の関係者に対する聞き取り調査や中学生・高校生に対する量的・質的調査を実施した。また、旧第 12 通学区の「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」との合同部会を設置・開催し、専門高校の将来像に関する議論を行った。

約 42 万の人口を有する 3 市 5 村の松本地域は、北アルプスを望む豊かな自然の中にあって文化芸術活動、温泉地、美術館や博物館、歴史的遺産などの多彩な魅力を備えており、電気・精密機械、食料品、医薬品など県下有数の製造業の集積地である。また、リンゴやブドウなどの果樹栽培をはじめ、ワサビなどの特色のある農産物にも恵まれた世界に誇るべき地域である。

しかしながら、松本地域も例外なく人口減少や過疎化、地域の産業人材の不足、地域住民の命と健康や災害に対する備え、地域文化の継承など、さまざまな課題に直面しているといっている。

このような背景にあって、懇話会では高校改革を少子化に対応した単なる縮小・統廃合ではなく、新たな学びへと改革するための好機ととらえ「新たな学びの推進」と「新たな高校づくり」に一体的に取り組むという基本理念のもと、県立高校 13 校、私立高校 7 校を有する松本地域における次代を担う子どもたちの学びのあり方や、将来を見据えた高等学校の将来像などについて様々な観点から議論を重ねてきた。

新たな時代の担い手であるこれからの子どもたちの教育環境の整備を通じて、地域資源を活用した高度で先進的な学びが展開されていくことを願い、松本地域の県立高等学校の今後のあり方について、意見・要望する。

## 2 旧第 11 通学区内の高等学校の現状と課題

### (1) 旧第 11 通学区内の高等学校の現状

旧第 11 通学区の高等学校は、県内の他の通学区と比べて特殊な状況にある。例えば、①私立高校（全日制・通信制・広域通信制）、私立高校附属中学校、中等教育学校、私立小中学校、国立大学附属学校（幼稚園、小学校、中学校）など、県立以外の多様な学校が数多く存立していること、②私立高校の特色化が進んでおり、私立高校の多くが募集定員を満たしている一方で、県立高校は定員を満たさない学校もあること、③松本市内中心部の都市部存立普通校に志望が集中していること、④松本市内中心部にある専門校は松本工業高校のみであるのに対して、他の専門校は安曇野市に集中していること、などが挙げられる。そして、中学卒業者の約 55%が通学区内の県立全日制へ、約 25%弱が通学区内の私立高校に進学している。

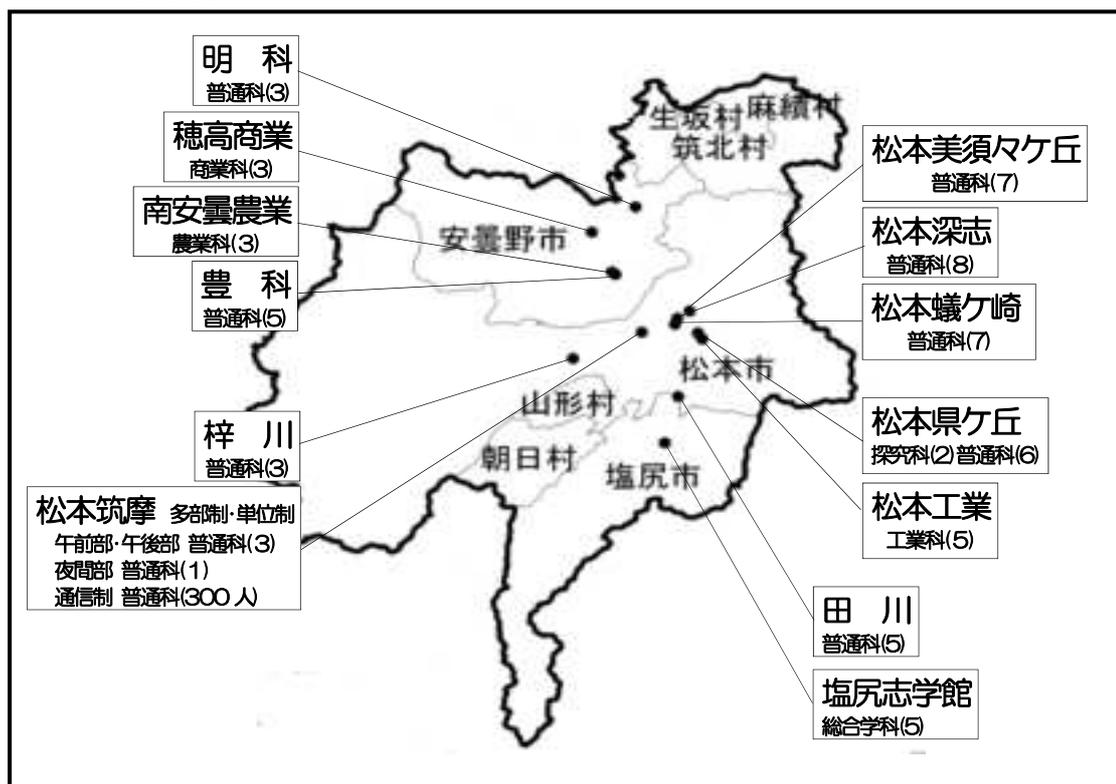
(2) 第1期長野県高等学校再編計画以降の動向

① 高校配置の状況

2007年（平成19年）に多部制・単位制高校が設置された。

実施年度	再編統合等の状況	
2007年 (平成19年)	松本筑摩 (全日制・定時制・通信制：普通科)	松本筑摩 〔多部制・単位制・通信制〕 普通科
	松本工業 (定時制：工業科)	

2021年度の高校配置



② 生徒の状況（巻末資料参照）

中学校卒業生数の予測

高校入学年	2017年	2025年	2030年	2035年
中学校卒業生数	4,226人	3,656人	3,545人	3,018人
2017年に対する比率	100%	87%	84%	71%

旧第11通学区の中学校卒業生の高校進学状況（2021年度 全日制）

内 訳	人 数	割 合
旧第11通学区の公立高校へ進学	2,171人	56%
上記以外の高校へ進学	1,392人	36%
・旧第7通学区の公立高校へ進学	97人	---
・旧第12通学区の公立高校へ進学	94人	---
・県内私立高校へ進学	873人	---
・その他（県外含む）	328人	---

旧第11通学区の高校への入学状況（2021年度 全日制）

内 訳	人 数	割 合
旧第11通学区の中学校から入学	2,171人	90%
上記以外の中学校から入学	230人	10%
・旧第7通学区の中学校から入学	59人	---
・旧第12通学区の中学校から入学	131人	---
・その他（県外含む）	40人	---

③ 高校改革～夢に挑戦する学び～「実施方針」に記載されている事項

「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」（平成30年9月）には、旧第11通学区に関する現況・課題と再編計画の方向に関して、以下の記載がなされている。

【現況・課題】（実施方針 54 頁）

- ・中学校卒業生数が2030年には2017年の80%まで減少する見込みである。
- ・隣接通学区との間の流出入は、旧第7通学区への流出及び旧第12通学区との間の流出入が多い状況にある。
- ・中信地区の私立高校を中心に県内私立高校へ990人程度が進学している。
- ・この通学区の私立高校は特色化が進んでおり、今後、私立高校への進学者が一層増加することも考えられる。
- ・松本市、塩尻市、安曇野市に募集定員240人～320人の都市部存立普通校が7校配置されており、現状の配置のまま推移すると、少子化の進行により学校規模が縮小し、都市部存立普通校として十分な規模が確保できなくなることが考えられる。
- ・安曇野・大北地域に農業、工業、商業の各専門学科が分散して配置されており、今後の少子化の進行の中で、これらの学科の一層の小規模化が危惧される。
- ・隣接通学区との間で流出入が多い状況が続いていることから、隣接通学区の高校のあり方や少子化の状況も視野に入れて、この地域の高校の将来像を検討する必要がある。

【再編計画の方向】（実施方針 55 頁）

- ・学校数が県内で最も多く、校種も多様である。また、私立高校も多い。これらを活かし、今後、少子化が進行する中で、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- ・専門学科の小規模化が想定される中で専門教育の活力を維持充実させていく必要がある。
- ・これらの観点を踏まえると、通学区内の私立高校との関連も視野に入れつつ、松本市、塩尻市及び安曇野市に適正数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立普通校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間地存立校を配置していくことが考えられる。
- ・また、専門学科については、総合技術高校の設置等、活力ある専門教育の学びの場を配置していくために、旧第12通学区の専門高校の将来像の検討と併せて、広域的・多角的に検討していくことが考えられる。

### (3) 中学校卒業生数の推計

令和3年3月に中学を卒業した生徒は3,900名余りで、今後2年間の中学卒業生数は横ばい、2023年以降は漸減が続く見込みである。その後、2025年、2033年3月の卒業生は急激に200人程ずつ減少する見込みである。さらに、2035年3月の中学卒業生は3,000人程度との見込みであり、高校改革の起点とする2017年3月の中学卒業生の約71%になる見込みである。(巻末資料参照)

### (4) 流出入等の状況(2021年度入学者選抜の結果)

旧第11通学区の中学生のうち旧第11通学区内の全日制高校へ進学した生徒は3,089名(県立2,171名、私立922名)で、公:私=70.2:29.8となった【前年 計3,043(公2,108私935) 公:私=69.3:30.7】。

旧第11通学区から旧第12通学区の全日制県立高校へ94名、12区から11区へは131名入学しており37名の流入超過、旧第11通学区から旧第7通学区の全日制県立高校へ97名、7区から11区へは59名入学しており、38名の流出超過であった。(巻末資料参照)

※ 以後の記述は、各研究部会等開催時の状況なので、現状と異なっている場合があります。  
 ※ 高校概要の表題はR2年度の「高校名 募集学科クラス数(1・2・3年) 全校生徒数」、進路概要はR1年度卒業生の状況です。

### (5) 松本地域(研究部会I)

#### ① 地区内の高校概要(聞き取り結果)

梓川高校 普3・普3・普4 331名

概要	地元4中学校(波田、鉢盛、梓川、高綱)出身者が6割 2・3年次「教養」「福祉コミュニケーション」「情報ビジネス」の3コース制 全校朝学習 朝のSHRの前の10分間ドリル学習
地域連携	福祉体験学習、満蒙開拓団紙芝居「あの日の灯」プロジェクト
進路概要	大学14%、短大10%、専門学校40%、就職32%
課題等	小規模化により、今までと同じクラブ活動の維持が難しくなっている。

松本工業高校 5(機械2電気1電子工業2)・5(機械2電気1電子工業2)・5(機械2電気1電子工業2) 572名

概要等	・新聞記事のスクラップの習慣付け ・課題研究(3単位)は、大学・企業との連携から「ものづくり」を学ぶ
地域連携等	・松本市議会との交流事業、人材育成支援ネットワーク※1 ・松本地域健康産業推進協議会実証実験※2
進路概要	大学31%(国公立11・私立48)、短大2%(高専1含)、専門学校21%、就職46%
課題等	・特別な配慮が必要な生徒が多くなり、さらなる支援の充実が必要 ・生徒の学力差の拡大、高等専門学校との競合、多様化する進路への対応 ・中学生やその保護者に工業の魅力が伝わらない

※1 2017年(H29)10月に発足した任意団体。主事業として「キャリア教育支援(合同企業説明会等)」「課題研究助成、技術指導」「ものづくり系競技会参加助成」

※2 ネットワーク会員企業と連携し松本地域健康産業推進協議会実証実験を受託。4年目の今年は、歩行不自由者の「電動歩行補助装置」による歩行支援実証実験を実施。

松本県ヶ丘高校 普6探2・普6探2・普6探2 957名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WWLコンソーシアム支援事業「カリキュラム開発共同実施校」指定※</li> <li>・探究科は2年次より国際・自然に分かれ個別テーマ研究に取り組む。</li> <li>・海外研修：台湾（普）、マレーシア or カナダ等（探）他、個人海外留学促進。</li> <li>・生徒の自治活動が盛ん。学校の枠を超えた活動にも積極的</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学及び清水中学校との三者連携</li> <li>・信州大学グローバル化推進センターとの連携</li> </ul>
進路概要	大学66%(国公立108名・私立103名) 短大0.6%、専門学校3.5%
課題等	20～30年後の社会像を見据え、現代的な諸課題に対応した必要となる資質・能力をどう育成するか。今後は大学、企業、地元市町村等の関係機関と連携した、高度かつ多様な学びの提供について研究していく必要がある

※ 令和2年度から3年間、文部科学省ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム支援事業において、広く連携校と共有し“中农信地区の学びの拠点”の役割を期待。

松本美須ヶ丘高校 普7・普7・普7 824名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・謙虚で驕らず堅固でありつつ、友愛の情に溢れた「みすずの心」を継承</li> <li>・生徒会が中心となって制定した「美須ヶ丘憲法」が象徴する自由と自立の校風</li> <li>・多様な進路希望に対応できる豊富な選択科目と充実した補習授業</li> <li>・運動系文科系ともに活発なクラブ活動、多くのクラブが上位大会に出場</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事、イベント、ボランティア等に多くの文科系クラブが参加</li> <li>・生徒会役員や有志生徒が女鳥羽川河川敷の除草・清掃作業を継続して実施</li> <li>・松本盲学校との交流会</li> <li>・教職志望の大学生との交流（学習支援、探究活動補助、模擬試験補助など）</li> </ul>
進路概要	大学51.1%(国公立17 私立124) 短大10.9%(国公立7 私立33) 専門学校等18.8% 就職3.3% その他14.9%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本市内の普通科高校としての本校の特色づくり、他校にない魅力づくり</li> <li>・地域への情報発信がやや不足、地域からの意見を学校改善につなげたい</li> <li>・ICTを活用した学習指導の研究、授業改善をさらに進める</li> </ul>

松本深志高校 普7・普8・普8 928名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から「人文科学（文系）」「自然科学（理系）」に理系を深める「自然特別探究」を加えた3コース制（2年次から）へ移行</li> <li>・県立高校「未来の学校」構築事業実践校としての取組（高度な自治）</li> <li>・信州大学と連携したゼミ活動（年間5日）、深志×KDDI 共創プロジェクト※</li> <li>・生徒会活動が盛ん。生徒大会、折衝会等を通して生徒の主体性が養われる</li> <li>・「とんぼ祭」は自治活動の集大成 主体・協働的取組は生徒の成長に繋がる</li> </ul>
地域連携等	・地域交流委員会、鼎談深志の活動
進路概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生314（進学希望者313名、就職希望者1名）</li> <li>・進学者180（国立大53%、公立大学7%、私立大学39%、専門学校1%）</li> </ul>
課題等	・地域社会の期待に応えるためにも、生徒の可能性を引き出す進路実現

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別配慮が必要な生徒が増加傾向でさらなる支援の充実が必要</li> <li>・ICT を使いこなす効果的・効率的な学習活動</li> </ul>
--	--

※ KDDI 等の助言が得ながら生徒会有志が取り組む学校ホームページ刷新プロジェクト

松本蟻ヶ崎高校 普7・普7・普7 840名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オンライン」と「対面」とのハイブリッド授業、「反転学習」の模索</li> <li>・「銀河セミナー」（土曜の特別講座・模試、教養講座）の開講</li> <li>・高い部活動加入率（96%）、手厚い同窓会からの支援、創立120周年（R3）</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園との協力関係、町会秋の交流会への協力。樹木（植栽）調査等</li> <li>・書道部による路線バスボディ等の作品制作、JRC（ボランティア部）活動</li> </ul>
進路概要	大学77%（国公立80・私立163）、短大5%、専門学校6%、就職0%、他12%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術活動を基盤に感性を磨く高校をめざす</li> <li>・松本市との連携の推進、探究学習のいっそうの推進</li> <li>・地域活動・探究学習・学力向上という三者連動性の研究 他</li> </ul>

松本筑摩高校（定時制 [多部制・単位制]、通信制）

午前午後部 普6・普6・普2・普4 362名

夜間部 普1・普1・普1・普1 29名

通信制 普3・普3・普5・普4 810名（桐教室1を含む）

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活スタイルに合わせて学習する定時制午前、午後、夜間部及び通信制課程</li> <li>・小さな学習集団（午前・午後部では20人程度でクラス編成）</li> <li>・主な学習時間帯以外の授業選択により、3年で卒業可能（三修制）</li> <li>・以前の在籍校の修得単位、各種技能試験の成果を単位認定</li> <li>・多くが不登校経験 家庭環境に恵まれない生徒も含め、個に応じた指導体制が本校の要。情報共有や個別支援に注力 充実したカウンセリング体制（常駐型相談室、定期カウンセリング、医療機関アドバイザー）</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本少年刑務所との連携 刑務所内に分教室（桐教室）。通信制職員が出向いて授業 受刑者と軟式野球部生徒がソフトボール交流 [R2.10.30]</li> <li>・地域とともに学ぶ講座（ものづくり講座、パソコン講座等）</li> <li>・外部指導者との連携（信州ジビエ普及実行委、中信多文化共生ネットワーク等）</li> </ul>
進路概要	大学3%、短大3%、専門学校18%、就職46%、他27%（通信制を除く）
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校における本校通信制を活用した併修の拡充</li> <li>・通信制におけるオンラインシステムの活用、家庭におけるネット環境の状況</li> <li>・外部機関とのさらなる連携</li> <li>・特別な支援を必要とする生徒増加（個別支援に対応する相談体制及び職員体制の維持拡充、学び直し、SST、キャリア教育、授業のユニバーサルデザイン化、ICTの活用について研修を深めている）</li> </ul>

(参考)

【私】松商学園高等学校 商2普10・商2普11・商2普11 1,321名

概要等	<ul style="list-style-type: none"><li>・明治31年創立以来122年の歴史</li><li>・「自主独立」の建学精神に従い、県内唯一私立学校で商業科を維持</li><li>・県内最大の生徒数、毎年多くの部が全国大会に駒を進めている</li><li>・地域に卒業生が多くその子供が多数入学し、元気で活気溢れる学校</li><li>・課題研究(1・2年次、各1単位「総合的な探究の時間」)</li></ul>
地域連携等	・大会補助員、松本城床磨き、販売実習、松本商工会議所との連携 等
進路概要	大学55%(国公立13、私立236)、短大11%、専門学校18%、就職7%
課題等	<ul style="list-style-type: none"><li>・定員の確保、生徒の資質向上、進学率の向上</li><li>・授業用設備の充実(ネット環境等)運動部の強化、運動施設の整備</li></ul>

【私】松本国際高等学校 普・環境福祉・漫画イラスト 6・6・6 607名

概要等	・生徒の希望に応じた様々な学習コースの設定	
	普通科 IBコース	国際バカロレア日本語DP認定校(2018年)として、バカロレアのカリキュラムの学習をし、その資格(ディプロマ)を得ることができる
	普通科 特進コース	難関大学への進学を目指して学習をする
	環境福祉科	介護福祉士の受験資格を得ることができる
	マンガイラスト科	マンガ家による指導を受け、専門的スキルを身につけられる
	<ul style="list-style-type: none"><li>・県大会上位、全国大会に出場するなど充実した部活動</li><li>・1学年は全員タブレットを購入・電子黒板を年次進行で設置</li><li>・総合的な探究の時間で「SDGs」を学ぶ「知の理論(TOK)」を学び、知識の意味、物事の考え方について学習</li></ul>	
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"><li>・「コミュニティ活動(地域の清掃)」を学年単位で実施</li><li>・地区の文化祭、夏祭りへの参加、MGプレスにイラスト科の作品を使用</li><li>・小、中学生とスポーツを通じての交流(女子野球、ラグビー、サッカーなど)</li></ul>	
進路概要	大学22%(国公立1・私立36)、短大3%、専門学校等37%、就職25%	
課題等	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習活動、部活動等の改善や特色づくりが必要</li><li>・普通科を希望する生徒の割合が増加する中で今後の専門科の在り方</li><li>・中信地区唯一の併設型中高一貫校としての良さを活かしていく</li></ul>	

【私】松本第一高等学校 普5食2・普5食2・普5食2 626名

概要等	<ul style="list-style-type: none"><li>・学びのニーズと進路希望に添うコース・系統で異なる教育課程を設定</li><li>・食物科、普通科4コース(SS特別選抜、文理選抜、学術探求、スポーツサイエンス)、学術探求3系統(総合学術、美術工芸、専修学術)</li></ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"><li>・「学校アドバイザー委員会」関係者、近隣中学校長2、町内会役員2に委嘱</li><li>・普通科は小学校や保育園での読み聞かせ、食物科が近隣の事業所等に出かけて、みそ作り、そば打ち、農場見学、テーブルマナー等の実習 他</li></ul>
進路概要	大学42%(国公立13・私立83)、短大11%、専門学校22%、就職18%、その他7%
課題等	安定的な学校経営を確立するための生徒数を確保するための魅力ある学校づくり(授業改善・教育課程の改善・広報活動・ICT環境改善・人材確保)

【私】エクセラン高等学校 普3美1福1・普3美1福1・普3美1福1 337名 (R2.5.1)

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブな環境の中で、個々のニーズにあった教育を実践し、社会の形成者として必要な資質を備えた人間を育成</li> <li>・普通科4コース(環境科学、国際理解、園芸農業、生活文化)、美術科4専攻、福祉科</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のイベントへの参加、地域への学校開放、小中学校との交流や連携</li> <li>・大学・短大等地域の教育機関との連携(大学生による授業支援ボランティア、学生コラボ、大学との連携授業、福祉科と地元大学との連携等)</li> </ul>
進路概要	大学9%(8名)、短大5%、専門学校33%、就職37%、就労移行支援12%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数の安定的確保</li> <li>・ICTを活用した教育と探究的な学びの一層の充実</li> </ul>

【私】信濃むつみ高等学校(通信制・単位制 普通科) 普3・普4・普5 442名 (R2.5.1)

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制として高校卒業資格取得を目的とするのではなく、生徒が共に受け入れ合い、共に尊重し合う、より良い社会の実現を目的</li> <li>・卒業要件にない研修旅行(沖縄・中国・カンボジア・タイ・ベトナムなど)</li> <li>・ボランティア活動、知識・体験・経験を上げ、知恵を得るゼミ活動</li> <li>・アルバイトや市民サークル、公民館活動、育児などさまざまな活躍</li> <li>・「生き方」も含めた進路を共に考え、生徒・教職員共に成長できるまなびの場</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園と共同避難訓練、地区敬老会、地域交流イベント(特別活動)の実施</li> <li>・多機能型事業所、就労継続支援B型事業所さん等による校内販売</li> <li>・「まなび研究会」職員間での研鑽の場</li> <li>・教員の得意分野においてテーマ設定して運用することで、生徒はさまざまな「生き方」を知り、教科横断的で探究的なまなびが実現</li> </ul>
進路概要	大学27%(国公立1・私立30)、短大8%、専門学校等25%、就職24%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設定教科の見直し</li> <li>・コロナ禍と通信制という特性により生徒との関わりが希薄となっている</li> </ul>

② 中学生への聞き取り(松本市内中学生7名)

【中学校生活：中学校のいいこと、楽しいこと、はまっていること】

- ・高校選びに友達関係は大事。みんなでグループワークする勉強は好き。
- ・チームでもめたりすると嫌な気分。面倒くさがりで、テスト前にあわててやる。
- ・大学に進学するためにも学力を上げないといけないので、頑張って勉強しないと。
- ・勉強は好きだけど授業は嫌い。・会計士にあこがれ、高校、大学に行きたい。
- ・わからないことを教え合って、わかってくれると嬉しい。なりたいことがいっぱいある。
- ・行きたい学校はある。ここか、ここしかないだろう。ここならいいかなという感じ。
- ・やってみようがないのでやる気がない。
- ・兄は数学が得意で、姉は美術が得意だけど、自分は何もなくて、劣等感があつた。
- ・暗記は苦手だけど、どうしてそうなったかなどを考えることが好き。

【高校の学科：どのような高校に行きたいか。】

- ・高校でやりたいことを見つけたい。 ・アスリートになるために私立に行きたい。
- ・雰囲気が好き、校則が自由なところが楽しそうに思える。 ・部活より偏差値。
- ・偏差値が高い学校。私立の方が特徴があり、公立もそういう特徴があればよい。
- ・安心できるところ。 ・文化祭活動に熱が入っているところ。

【高校選択：高校を選ぶときどういう情報がほしいか。】

- ・公立と私立の学費などの差について。
- ・やりたいことが決まっている人はいいが、そうでない場合、どうすればいいのかと思う。

【その他：他の人と一緒に学び、答えのない問いを考えること】

- ・国語でSDGs について、ブレインストーミングをやってわくわくしてとても楽しかった。
- ・条件が3つ与えられて解決する糸口をみんなで考えること。  
(この生徒以外の多くから、こういう学びを「やりたい」との声あり)

### ③ 構成員の意見

【情報発信等について】

- 探究的な学びや地域との連携が進められていることを新たに認識。中学生やその保護者への県立高校の情報発信は大きな課題であり、高校生自身が直接語る SNS などのツールの活用、体験教室や生徒との懇談、各高校がどんな活動をしているかを総合的にみられる機会の創出など、各校の魅力や特色を伝える努力と伝わり具合を自覚的に問い直す必要がある。また、各校の取組や特徴をPTA連合会等で情報発信するなど、積極的アピールが必要。
- 高校改革については、保護者や同窓会への早めの周知、丁寧な説明、プロモーション動画などによるきめ細やかな情報発信が必要。
- 子どもの多様化の進行に大人の意識が追いつかず、自身が受けた教育観に囚われて「昔は良かった」というような議論は危険。大人が古い慣習に囚われず、学力観を変え、グローバルな視点で若い人たちとの考え方のギャップを埋めるよう努力することが必要。
- 麻績は通学時間がかかるが東北信の高校を含めた多様な選択肢が可能。松本は「学び」にとって非常に魅力ある街であり、連携が進めやすいという利点を活かすべき。

【公立高校について】

- 公立の役割は学びの下支え。子どもたちに夢を持たせるという視点で各校の特色化が求められており、公立は地域連携をさらに強化して特色化を図るべき。
- 中信地区に文科省指定校や中高一貫公立校が存在しないのは全国の自治体でも珍しい。学びのスタイルの探究型へのシフトを真摯に受け止めて危機感を共有して欲しい。

#### 【私立高校について】

- 私立高校は15年前から少子化について議論し、生き残りのために練りに練った戦略を立て多様なバリエーションを生み出し魅力的な学校づくりを実践してきた。
- これまで、公立と私立が協調することによって中学浪人を極力出してこなかった。公立と私立の共生のために両者の情報共有が重要。

#### 【定時制・通信制について】

- 高校入学後の進路変更により通信制に転学してその後の人生を切り拓く生徒も多く、その重要性は高まっている。また、少子化の中にあっても定時制に通う生徒の割合は減少しておらず、公立・私立・定時の3極化の認識。
- インターネットで学ぶ広域通信制へ進学することを決めて過ごす中学不登校生も実在する中で、県立通信制より私立の通信制の方が融通性である印象であるが、同時に広域通信制の課題も指摘されており、中学の進路指導の悩ましい部分。
- 松本筑摩高校では、支援会議などにより非常に丁寧に生徒を受け入れており、学びの保障の観点からも松本筑摩高校（多部制・単位制、通信制）の充実が求められる。

#### 【特別な支援を要する子どもへの対応について】

- 日本語を母国語としない子どもたちに対し、松本市は県内で唯一日本語教育センターを設けているが、学習言語が習得できずに高校進学に繋がっていない子どもたちへの対応も公立高校の大事な視点。

#### 【部活動について】

- 私立では特化や強化クラブなどにより特長を出しており、公立もそうした特長を持たせる取組の必要性がある一方で、教員のボランティア性に依存しなければならないのが高校部活動の実情。今後、その在り方が大きく変わることも予想される中で、部活動の地域化など高校教育から部活を分離することを考えることも必要。

#### 【関係機関との連携について】

- 地域とのふれあいや、プロフェッショナル（社会人）から学ぶ機会などの様々な経験により心の変化が起こる。また、中山間地存立校においては地域と共に学ぶことが、地域の魅力発見につながり、地域の学校として存続の位置付けが生じる。
- キャリアパスポートについては公立・私立、あるいは県や市町村の教育委員会を横断した地域の魅力を生かすための視点も重要であり、各学校が地域連携を大事にしながら、それをどの様に子どもたちの学びに落とし込むか、そして、松本地域、広域全体で子どもたちが行きやすい魅力ある学校をつくるのが重要。
- 松本地域の小・中・高の子どもたちや先生方が地の利を生かした交流を盛んにし、学びを拓げるために信州大学を中心にまとまったらどうか。探究的な学びを深めていく上でも地域との連携は大切。また、県立高校同士あるいは県立と私立の連携やネットワークづくりも重視すべき。

【施設環境整備について】

- ICT化やオンライン授業などにより、不登校生徒の学力保障や小・中・高の学びの連続性、義務教育と高校教育との関係づくり、特色ある施設のシェアなど、学びの多様化に応えられるシステム作りと環境整備が必要。

(6) 塩尻地域（研究部会Ⅱ）

① 地区内の高校概要（聞き取り結果）

塩尻志学館高校 総合5・総合6・総合6 652名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望に合わせて時間割を作成、8つの系列*の多様な選択科目を開設</li> <li>・丁寧なキャリア教育、「シオジリ学」「総合研究」などの探究的な学び</li> <li>・「志学の時間」を毎朝5分間実施、実習・体験交流・ICT等多様な学習形態</li> <li>・少人数授業を生かしたマンツーマンの指導、多彩な社会人講師の活用</li> <li>・サポーターズシステム（個別教育支援体制）による生徒支援</li> <li>・様々な種類の検定・資格取得</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講師による講義・講話</li> <li>・“シオジリ学”における企業・事業所・自治体等との連携、就業体験</li> <li>・ワイン醸造企業、塩尻市との産学官連携協定（ブドウ栽培、ワイン醸造）</li> <li>・塩尻市との連携（カリフォルニアワイン研修、成果報告会、公開授業等）</li> <li>・塩尻商工会議所との連携（出張シリゼミ）他</li> </ul>
進路概要	大学26%（国立8名・私立58名）、短大20%、専門学校32%、就職16%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な学習分野や選択科目を開講するための適正な学校規模の確保</li> <li>・生徒のニーズ、時代の要請、地域の期待に応える学習分野や教育内容の研究</li> <li>・総合学科の柔軟性を活かした教科横断的な学びや探究的な学び等の充実</li> <li>・中学校との接続を踏まえたキャリア教育や「探究的な学び」を研究・充実</li> <li>・特別な配慮が必要な生徒に対する更なる支援体制の充実が必要である</li> </ul>

※人文社会、自然科学、芸術・スポーツ、生活福祉、国際文化、環境科学、食品科学、情報ビジネス

田川高校 普5・普5・普6 585名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開校当時（昭和58年4月）学年10学級 現在は5学級</li> <li>・地元に進学、就職する生徒の割合が比較的高い</li> <li>・塩尻市の暮らし向上をテーマとしての教科横断探究型授業の実施</li> <li>・地域に出ていく活動が増えている</li> <li>塩尻市全国短歌フォーラムへの参加及び地域と短歌の学習</li> <li>塩尻商工会議所との連携によるシリゼミ田川バージョンの実施</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心として塩尻市・松本市地域へのボランティア活動参加</li> <li>・地域の諸行事への参加（ファミリースポレクフェスティバル等）等</li> </ul>
進路概要	大学17%(37)、短大14%(31)、専門学校39%(87)、就職15%(34)
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮を必要とする生徒の増加</li> <li>・前期選抜は1倍を超えるが、後期選抜で定員を割り再募集することがある</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学生徒減により、以前のようなクラブ活動が維持できない</li> <li>・様々な取組はあるが普通科の魅力づくりとまではいかない</li> <li>・施設設備の老朽化が否めない。小規模な改修に留まっている</li> </ul>
--	---

(参 考)

【私】都市大塩尻高校【全日制・普通科（特別選抜類型：探究コース・国公立難関私大コース 文理進学類型：特別進学コース・特別進学スポーツコース・総合進学コース・総合進学スポーツコース）】

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立高校は「スピード」と「独自性」が重要</li> <li>・県立高校ではできないことに取り組む独自性が必要</li> <li>・「スポーツ」と「学業」の両方をそれぞれに力を入れている 学びたい子には、朝から晩まで学習だけに打ち込める学習の場を設けたコースもある また、グローバル的な人材の育成や文武両道コースの充実を図っている</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の保育園等に施設を貸し出すなどの連携を図っている</li> </ul>
進路概要	大学49%、短大9%、専門学校31%、就職11%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で中学生が早めに進路を決めようとしていることも考えられる</li> <li>・施設、設備の充実について、スピード感をもってやっている</li> <li>・入学生徒数が定員超過で県教育委員会からお叱りをいただいたこともある</li> <li>・「少子化の中での募集定員数の削減への対応」、「今までの併願受験者の受け皿から、専願受験者の確保へ切り替えていく必要性」等が課題</li> </ul>

## ② 中学生からの聞き取り(塩尻中学校3学年 高校改革グループディスカッション ワークシートより)

【中学卒業後の進路について】高校に進学したいと思うか(その理由)

- ・将来の道を広げる(職業の幅が広がる)・中学卒業では仕事がない(職業が限られてしまう)
- ・しっかりした収入を得るため・中学校にはない部活動ができる、部活の種類が増える
- ・大学や専門学校へいくための基礎を磨きたい・将来の夢があるから・友達を作りたい
- ・たくさんの人と関わることができ、自分のやりたいことが見つかる
- ・自分の力を高める・自分の限界や能力を知りたい・自分の目標を達成するため
- ・中学校では学ぶことができない分野をもっと広く学びたい・高校生活に憧れがある

【学びについて(「楽しい授業」「為になる授業」「もっと受けたい授業」)】

- ・グループで話し合うことができる(個人の意見を尊重する)・自分たちで学ぶ
- ・重点やポイントがわかりやすい・身近な事例に例える・インターネットの活用
- ・PCを多用して分かるまで自習できる・一人ひとりに合わせた授業・興味がわか
- ・先生が親しみやすい・先生と生徒でつくる授業・テストや入試に役立つ
- ・自分の意見が言いやすい、ポイントがわかりやすい、疑問がうまれる授業
- ・疑問が解決できる授業・自分の好きなものを詳しく探究できる授業
- ・いろいろな教材を活用した説明や体験ができる・板書が分かりやすく見やすい
- ・一つひとつ詳しく教えてくれる・苦手の克服ができる・社会に出て為になる授業

- ・教科書に載っていないことを学べる

【学びについて（「探究的な学び」「主体的な学び」「対話的な学び」）】

- ・「対話的な学び」で、いろいろな意見が聞くことができる ・みんなで考えを深め合える
- ・一つのことに詳しく調べて学ぶ ・自分の意見をしっかり持てる ・先生があまり話さない
- ・自分から積極的に取り組む ・調べられるから理解しやすい ・主体的に深く掘り下げる
- ・自分の力で調べたり、研究したりすることによって、疑問に思っていたことを解決できる
- ・一人ひとり違う意見が出せるので自由なイメージ ・授業のほかに努力を要するというイメージ
- ・理解しやすい ・難しそう ・自信がつく ・大人になって使う

【(未来の) 高校への期待（「理想の高校」「魅力的な高校」を自由にイメージ）】

- ・テストをしないで入学できる高校 ・就職率100% ・学費などお金がかからない
- ・授業や先生がおもしろく、部活動や授業に集中できる ・一人ひとりの個性を大切にする
- ・みんなの意見を聞きながらつくる楽しい行事がある ・教科選択ができる ・進学に特化
- ・英語以外の語学が学べる ・個人の意見を尊重してくれる ・過ごしやすく、未来を見据えた授業
- ・環境が良くて色々なことに熱中できる高校 ・学びたいこと、専門的なことをじっくり学べる
- ・校舎がきれいで雰囲気が良い ・WiFi環境がある ・最新機器が揃っている
- ・部活動に力を入れている ・体験学習がある ・バイトができる ・校風が自由で堅苦しくない
- ・全校が仲良くいじめがなく明るい ・オンライン ・文武両道 ・交通の便がいい（駅に近い等）

【中学卒業後の年代（高校生の年代）に「勉強」や「学び」以外で大切だと思うこと】

- ・将来のこと ・人としての行動（思いやり、礼儀など） 上下関係 ・自分や家族との時間
- ・コミュニケーション力（人間関係、自己表現力） ・地域の人との関わり ・人間性（モラル）
- ・友達関係 ・心の支え ・青春、恋愛、部活、運動、バイト、遊び ・お金 ・スマホ ・食事
- ・他人の思想や個性を大切にする ・自ら様々なことに取り組む ・好奇心 ・プログラミング（IT）

### ③ 構成員の意見

【探究的な学びについて】

- 高校において講義型の授業とあわせて探究的な学びを意識した授業展開により、生徒自ら課題を見つけ追究するなど主体的に学んでいる姿が見られる。一方、中学校では探究的な学びの場を設けるだけでは意味がなく力もつきにくいとも感じる。より効果的な探究的な学びの模索とともに高校への繋がりも課題。
- 塩尻地域の高校は、教員（若手もベテランも）意識が変わってきており、板書や講義型の授業からICT活用、生徒同士の対話型授業、双方向型への授業展開がみられる。地元市議会と意見交換等、各教員が独自に考えながら取り組んでいる。一方、知識活用のための授業も重要な中で探究的な学びや主体的対話的で深い学びについての理解を深める取組が必要。探究的な学びのモデル授業がないと広

がらないのではないか。

#### 【地域との連携等について】

- 高校における「地域」の範囲設定は難しい。一方、高校においてもコミュニティ・スクールへの取組、義務教育と高校教育、地域とのつながりのための体制づくりが必要。
- 私立高校はスポーツ（部活）を通じて学ばせている。また、生徒に地域社会でのアルバイトを勧めている。

#### 【特別支援教育の充実】

- 教育相談係や特別支援コーディネーターの役割を職員が担い、外部カウンセラーをお願いするなど組織的に対応。また、校内に「教育相談室」を設置し、週1回程度の個別の支援会議等により対応している現状。
- 自情障の生徒、不登校傾向の生徒たちにとって通信制や多部制など少人数対応の学びの場の役割は大きく、さらなる充実が必要。また、特別な配慮を要する生徒の増加に伴い、県立高校への「特別支援学級の整備」「通級指導教室の整備」「専門知識を有する人材の配置」が課題。
- 不登校、発達障がい、愛着障がいなど子どもたちの個性や特性が多様化する中で、県立高校は、これらの生徒すべてを受け入れられていないのが現状であり、学びの保障の観点からも県立高校における特別支援教育のさらなる充実が課題。

#### 【ICT活用教育の充実、環境整備について】

- 小中学校では1人1台のタブレット端末が整備され活用され始めた。社会情勢により、ICT活用が必要だが、ICTに偏らない学びが必要。また、高校においても生徒1人1台のタブレット端末の整備、ICT機器の活用方法等の研究や実践が必要。
- 特別支援教育、地域連携教育、ICT活用教育など、新しいことを行うにあたり、人材の育成と人員増が必要。働き方改革の観点から新しいことを行うためには何かを減らす必要があり、サポーター等による支援も必要。

#### 【地域に開かれた学びの充実（キャリア教育の充実）】

- 高校の普通科改革が求められる中、地域に開かれた教育課程の観点からも生徒が、自分の考えで行動し、地域社会の現実を知ることが必要。コロナ禍において体験や対面での学びが不足しており、学校と産業界の連携の充実や地域社会と関わる取組を全県的に加速するための環境整備が求められる。
- キャリア教育は高校教育の中で重要な位置を占めており、中学校で活用しているキャリアパスポートを高校でも継続して活用できるよう塩尻地域の高校と市内中学校との情報交換をしながら検討中。

#### 【高校間連携の必要性】

- 生徒が望んだ高校で学ぶことができない場合が考えられることから、高校間の連携について全県で考える必要がある。

【地域での活躍について】

- 生徒自ら事業所見学の電話相談があり主体的に行動していると感じる場面もあるが、一般的には、言われたことはやるが、自分から行動しようとせず、自分で考えて行動する力が弱いと感じる。まずは、仕事や物事に興味関心を持ってほしい。それが自分で考えることにつながると思う。

【高校の選び方について】

- まず、高校名へあこがれ、次に、自分の特性や興味から学科を選ぶ。部活動や制服で選択することもある。高校の体験入学などから息づかいを感じ、志望を固める。

【座長のまとめ】

- 学びのスタイルが変わってきており日々の授業のスタイルまで変えられるか、どう変わるかが要となる。また、不登校、発達障害などの生徒が様々な公立高校で学び続けることができるようになるとよい。専門性を持った人員配置など、セーフティーネットが重要となる。
- 生徒会などの特別活動は重要である。生徒が自分の言葉で伝えることが必要。
- キャリア教育という視点で、これまでの進学・就職といった短期的なことへの取組から、今後の生き方など長期的なことに対する取組が必要。
- 探究的な学び、地域連携、SGDs に関しては、小中学校では学年やクラス単位でテーマを見つける総合的な学習があるが高校では個人テーマを持つことも重要。

(7) 安曇野地域 (研究部会Ⅲ)

① 地区内の高校概要 (聞き取り結果)

明科高校 普3・普3・普3 300名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校ならではの安心、安全な学校生活、丁寧な個別指導</li> <li>・明科駅徒歩10分の好立地、4方向からの地域振興バス(校内乗り入れ便有)</li> <li>・小規模校サミット参加でできた全国のネットワーク</li> <li>・地域活性化の担い手としての期待が大きい</li> <li>・多数の少人数講座を実施</li> <li>・明科タイムの実施：毎日10分間の基礎学力定着のための学習、5教科</li> <li>・「ICTカンファレンス長野大会」2015・2020年の2回全国大会出場</li> <li>・東山魁夷氏から寄贈された書籍やリトグラフ、木版画等を所蔵</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「明科いいまちつくろうかい」月1回の会議参加2013～</li> <li>・地域行事への参加(うまいもん市、あやめ祭り、駅前プランター等)</li> <li>・明科高校を語る会2012～、「小さな親切運動」表彰2019 など</li> </ul>
進路概要	大学10%(私立12)、短大10%(私立12)、専門学校30%、就職48%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別配慮が必要な生徒が多くなった 個別支援の多様化</li> <li>・定員を満たすほどの生徒が集まらない</li> <li>・小規模校化によるクラブ活動の維持 顧問不足や近隣校が無い</li> <li>・特色や特長を打ち出すためのマンパワー不足→地域の人材発掘と活用</li> <li>・教員数の増が必要</li> </ul>

(同窓会)

- ・地域が高校と一緒に生徒を見守ってくれているところが明科高校の特色。
- ・近隣の市町村でバスの運行も継続していれば通える学生は絶対にいると思う。

(保護者)

- ・情報処理や英検などの個別授業をさらに充実させれば生徒たちもやる気が出る。

(生徒)

- ・保育園、幼稚園との交流は、将来、保育士等を目指す人にとって良い経験。
- ・地域の方との活動機会、幅広い年齢層との交流、高齢者とのふれあいが大事。
- ・年齢の近い先輩方から身近な話を聞く場があればいい。
- ・地域の方の話に興味を持って、聞く気さえあればすぐに年配の方に聞ける環境が魅力。
- ・学校は活気があり、明科地域からすごく大事にされている。
- ・携帯電話の回収があるので授業に集中でき、友達との会話もすごくできる。

(「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言)

- ・現実的に統合は避けられないと思うが、地域の方々からは「明科高校が無くなってほしくない。」というのを聞いた。個人的にも人口が減少しても統合をしないで残ってほしい。
- ・地域の方々との繋がりや先輩が築いてくれた歴史があるから明科高校が無くなることに賛成はできないが、でも、統合することで長野県全体が活性化するなら仕方ないと思う。
- ・明科が無くなるのは残念だけど人数が減るのは止められないのではないでしょうか。新しい学校になったら、新たな地域との関わりをつくり、明科高校や他の学校の強みをミックスして、もっと良い学校が出来たらいいと思う。
- ・少子化で話し合った結果なら統廃合はしょうがない。でも残ってほしい。

(教職員)

- ・本校の特色は主に3点。少人数で一人一人に目が届くこと、ほとんど地元就職するので地域人材としての魅力、カウンセリングの体制の充実。また、学び直しの授業が魅力の一つ。
- ・生徒にとっていろんな大人と関わることはとても大事だと感じている。
- ・地域からは「明科には絶対明科高校が必要だ」という声をたびたびいただく。
- ・小規模校のメリットは、小回りが利いて挑戦しやすく、すぐ動ける環境であること。
- ・生徒減について危機感を持っており、生徒や地域の方から意見をいただいて魅力をさらに高めていきたい。

(構成員の意見)

- ・明科高校は、地域に根差して地域を大事にして活動しており、それが地域の皆さんへの信頼につながっている。

豊科高校 普5・普6・普6 672名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活発な部活動</li> <li>・真面目で穏やかな校風、学業に集中できる落ち着いた環境</li> <li>・地域に根差した高校 半数以上が安曇野市内の中学校出身 地元自治体職員に卒業生が多い</li> </ul>
地域連携等	信州学講座、社会人講師の活用
進路概要	大学 39%（国公立 6、私立 85）、短大 14%、専門学校 37%、就職 5%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これ以上の募集定員減は教育力の低下を招く 教員数削減に伴い理科・社会の専門教員が確保できなくなる 部活動、生徒会活動の維持が難しくなる</li> <li>・就職から大学進学までの進路希望に対応できる教育課程の維持・発展</li> <li>・松本市内の公立普通高校、私立高校との違いを鮮明にすること</li> <li>・多方面の地域連携の推進（小中高、高校間、企業、行政、地域住民）</li> </ul>

(同窓会)

- ・生徒が大きな声で挨拶をしてくれる穏やかな校風だが、積極性に欠ける。
- ・少子化が進む現在、高校の統合は絶対必要。
- ・遠くから多くの生徒さんが来られるように、いろいろな学科を取り入れて将来夢のある広がりのある高校になってほしい。

(保護者)

- ・豊科高校はこのままであってほしい。
- ・松本市内の公立普通高校や私立高校との違いを鮮明にすることが非常に大事。
- ・より進路希望に応えられるような教育の質を生かす取組をして欲しい。
- ・特色のある学科をつくってみるなどの工夫もこれからの豊科高校には必要。
- ・是非、子どもたちの率直な意見をどんどん取り入れていただきたい。

(生徒)

- ・松本や長野の高校とリモート会議（文化祭）をした。生徒間でもっと繋がりたい。
- ・地域の方達に支えてもらっているのがゴミ拾いなど少しずつ活動できたらと思う。
- ・市内の農業高校・商業高校と連携をとってみてもいいと思う。
- ・地域の方や地元企業や豊科高校出身の人達から、進路の話聞く機会があるといい。
- ・安心できる穏やかな高校。豊高にしかない強みを創り出したい。
- ・校風を知ってもらうために情報を発信しなくては。
- ・生徒だけではなく、地域の人たちにも楽しんでもらえるような活動が必要。
- ・授業の進み方が早すぎずわかりやすい。勉強も部活も頑張りたいと思う子に豊高は自分のスピードでできることを伝えたい。

(「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言)

- ・母校が無くなってしまったら、と考えると悲しい。統合の問題は難しい。
- ・少子化問題を考える意識が低いと思う。
- ・高校の授業料や中学等の給食費を無償化する等の良い環境が整っていれば人口も増える。
- ・6年間英語の授業をしてきたが、海外に出ても使える英語の授業をしてほしい。
- ・統廃合するのであれば両校の良いところを足して、より良く出来たらいい。
- ・使われなくなった校舎は壊さず、再利用方法を考えてほしい。
- ・これだけ人口が減るので統廃合も仕方ない。都会の人口を地方に向けることをすればよい。

(教職員)

- ・地元に戻りたい、残っていたいという生徒が多く、生徒に好かれている学校と感じる。
- ・トイレ等も少しずつ変えないと、入学時に小中学校との格差に驚いてしまう。
- ・生徒は少人数学級でやってほしいと願っており、私もそういう授業展開をしたい。
- ・生徒自らが学校をつくる、子どもたちの潜在能力を我々が信じる、そういうことが必要。

(構成員の意見)

- ・個人的な考えだが、明科高校と豊科高校が統合するというような形は、一つのケースになると思う。もし、二校が混ざり合うのであれば互いに補い合う関係にもなり得る。

南安曇農業高校 農3(グリーンサイエンス1、生物工学1、環境クリエイト1)・農3・農3 337名

概要等	・3学科9コース	
	グリーンサイエンス科	「フード」「フラワー」「フルーツ」
	生物工学科	「植物バイオテック」「動物バイオテック」「微生物バイオテック」
	環境クリエイト科	「設計エンジニア」「施工テクニカル」「環境デザイン」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「卒業論文(探究的な学習の時間)」(3年生)</li> <li>・進路支援「キャリアウィーク」「鵬塾(土曜塾)」、朝学習等による学力補充</li> <li>・「農家研修」「企業研修」(2年生全員)</li> <li>・関連企業や卒業生中心に地域産業界の手厚いサポートと応援</li> </ul>	
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市との連携協定:「販売実習」「商品開発」「ふるさと納税返礼品」など</li> <li>・松本大学との連携授業、マーケティング塾への参加、地元団体からの講師</li> <li>・学校開放講座(生徒が講師)、地域の小学校等との交流、イベント参加</li> </ul>	
進路概要	大学11%、短大7%、専修学校21%、県農・林大8%、就職47% 就職者の56%が農業・食品・土木・造園関係へ	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業高校としての特色が伝わりにくい</li> <li>・入学者数が募集定員を下回る年も</li> <li>・スマート農業に係る機器の導入や施設の更新</li> </ul>	

(同窓会)

- ・中信地区唯一の農業高校を存続してほしい、多様な生徒の学びの場をなくさないでほしい。

- ・少子化を理由に機械的に削減するのではなく、少子化を押しとどめるためにはどうしたらいいかを考えるべき。
- ・各種団体の方々が学校に来ていろいろな授業をしてくれる。そういった中で生徒は社会の仕事の仕方や先進的な学びをしており、このおかげで地域の企業に就職してもリーダー的な能力を発揮している。さらにこの学びを深められるような環境を整えていただきたい。

#### (保護者)

- ・南農高校の本年度の募集では定員を上回って多くの希望があったことから、県は職業高校のあり方を見直して、要望に応えられるような再編計画を考えていただきたい。
- ・南農生は、地元の小学校との交流や地域イベントでも活躍している。子どもたちも南農生にあこがれを持っている。地域に根差し田園を守り地域を守る学校を考えてほしい。

#### (生徒)

- ・実習で体を動かすこと、何かと触れ合うことができることが南農の魅力。
- ・コースの活動が充実し、生徒一人一人が充実した高校生活を送る行事が沢山ある。
- ・研究活動が3年間で大きな割合を占めた。ワサビ研究等地域のために研究をしてきた。
- ・3年間同じクラスのため実習の中で協力していくことで、人間性が高められた。
- ・地域の方とのふれあいや販売学習等、将来に繋がる学びが有意義だった。課題研究は自分で解決していく力、生徒同士も協力して解決しようという力が養われてきていると思う。
- ・農業クラブの活動で市内外の高校とのオンライン意見交流会や、ICTを駆使し交流した。
- ・花の販売実習をしている。地域の方や企業、保育園、老人施設の方たちが声をかけてくれる。
- ・第2農場で飼っている動物を地域の方が見に来てくれて交流できる時間が楽しい。
- ・JA女性部の方たちとの交流から、その時に困っていることを聞いて卒業研究に。アクアピアの見学から卒業論文のテーマになったこともあり、地域連携から発想を得るものが多い。
- ・バックホーや測量機器の難しい操作が必要なとき、建設業の方たちに講習会を開いてもらい技能習得ができることがうれしい。
- ・地域との関わりの回数を増やしてPRしていくことで興味を持ってもらえれば、中学生にも伝わって南農に入ってみようと思う人が増えると思う。
- ・少人数学習が特色・魅力。1クラスを3コース12~13人で。先生も注意深く見てくれる。
- ・多くの資格が取れることに魅力があって入学。先生方のサポートも手厚い。大きな機械や精密機械の操作が大きな魅力だと思う。
- ・外部と交流することで、南農の魅力が発揮されると思う。
- ・中信で唯一の農業高校なので、直接農家になるような教育があってもよいと思う。
- ・土木だったり、測量だったり注目されづらいところをもっとPRできればと思う。

#### (「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言)

- ・できれば残してほしいとは思いますが少子化で統廃合も仕方ないのかなとは思っています。

- ・農業人口が減っている。高校生の段階で農業に興味がないというのも原因だと思う。南農の魅力である少人数授業を残してくれないと統廃合には反対。
- ・どこの高校も、自分の母校が無くなるのは寂しいと思う。統合した高校は、規模が大きくなって動きにくいと感じた。
- ・少子化について南農は少人数校なので今まで実感がなかったが、データを見て驚いた。統廃合も仕方ないと思うが寂しいと思う。自分たちのできることをやるしかない。
- ・統廃合は仕方ないと思う反面、それぞれの学校の歴史があるので、少し抵抗はある。
- ・自分の母校が無くなるのはショックなこと。3年間生活してきて学校の良さを知っているからこそ、下の子たちにもぜひ来てほしいと思っている。長い歴史があるので、学校の良さをPRして統合せずにこのまま残っていけたらいいと思う。

#### (教職員)

- ・卒論は、昭和24年から取り組んでいる伝統的で探究的な学び。これらの取り組みの結果として、地域を支える人材を生み出していることが本校の良さ。
- ・生徒の伸び代がとて大きく、生きる力、社会に出て即戦力となる力を養い、社会が必要とされている人材に成長している生徒が多い。
- ・農業を通じて自信を持ち、交流を通じて地域を知り、地域の方々に支えられていること、必要とされていることを実感して就職あるいは進学して、将来地域に恩返しできる、そういう高校になっている。進学した生徒の中には地元に戻り農業法人や関連企業に就職している生徒が多い。このような取り組みを続け生徒の可能性を伸ばしていける学校でありたい。
- ・本校は農業の六次産業化を目指している。スマート農業にも関わるが、今の状況ではここまで繰り出せない。農・工・商の連携の意義はあり全てが融合している。農業の六次産業化という視点については、地域の皆様や広くご意見をいただきたい。
- ・南農、穂商とも体験学習会や学校説明会を経て「3年間で私はこんなことを学びたい」と入学してくる生徒たち。3年間それを突き詰めることによって得られるものが大きい。
- ・(前例の)総合技術高校は統合によっていくつもの地域連携等がなくなった。縮小せざるを得ないこともあることは総合技術高校になることによるデメリットというふうに考えてもいい。ただし、学科間連携による視野の広がり、探究的な学びの深まりといったメリットもあるが、高校間連携という形でも十分生かせる。

#### (構成員の意見)

- ・農業、バイオテクノロジー、環境は世の中の中心になってくるので非常に魅力的な高校。
- ・地域社会との結びつきは非常に有効だが、反面、生徒を地域に絞りすぎてしまわなければいいと思う。世界に通用する安曇野の若者を育てていただければと思う。
- ・(普通)高校と専門高校が何らかの形で交流等ができて、お互いに学びの互換性のようなものが作れたら良い。

穂高商業高校 農3(商2・情報科目1)・商3(商2・情報科目1)・商3(商3・情報科目1)376名

概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な資格取得（簿記、情報処理、マーケティング、FPなど）が可能</li> <li>・56%が安曇野市内中学出身者で占めている</li> <li>・卒業後は地域の担い手としての役割を期待</li> <li>・穂商マーケット 実習販売・商品開発・広告宣伝等の実践の場 キッズビジネスタウンほたか（小学生を対象にしたお仕事体験）</li> </ul>
地域連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講師、地元経営者講話、地元ホテル宿泊プランを作成等</li> <li>・デパートサミット事業（県内商業高校が連携した学びの場） マーケティング塾（松本大学・企業・高校間連携）隔月 デパートゆにっと（井上百貨店での販売）8月 バレンタインスイーツ（アイシティ21での販売）2月</li> <li>・安曇野市、松本大学、松本信用金庫とそれぞれ連携協定による事業</li> </ul>
進路概要	大学16%、短大19%、専門学校26%、留学1%、就職36%、家居2%
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集定員減、教員数減により部活動の維持が困難となっている</li> <li>・施設設備が老朽化しており私立高校と競争できない</li> <li>・中学生に選んでもらえる高校になるための対策が急務となっている</li> <li>・経済的に苦しい家庭状況の生徒が増加している</li> </ul>

#### (同窓会)

- ・3年前に約1万3千通の署名を県に提出。少子化を理由に、3校統合することは同窓会として納得いかない。県内で総合技術高校がないのは11通学区だけだが、なぜそれが安曇野市なのか、松本市にもそういった案を示していただきたい。3校統合するなら、場所はどこなのか。生徒の数はどうするのかなど県の方針を1日も早く出してもらいたい。
- ・南農・穂商、両校とも残してもらいたい。
- ・穂商は、地域とのつながりを持ち続けている、これを活かして、地域に根差したものを継続させていきたいことが願いである。専門高校の必要性をもっと議論すべき。

#### (保護者)

- ・まじめでこつこつと一生懸命の人材が多く地域に根差した学校。穂商の強みは県内に誇れる資格取得。こうした強みをもてる魅力ある学校にしていっていただきたい。

#### (生徒)

- ・穂商マーケットでは小学生を招いて実際に働いて体験する。先生や社長さんたちを招いて話を聞いてとてもためになっている。活用する場があれば広がっていくと思う。穂商マーケット・文化祭等で本校の魅力を伝える機会を増やせればと思う。
- ・全校生徒が主体で接客するマーケットは商業校でしかできない。
- ・商業を学べること、人とのコミュニケーション能力、資格取得や検定、社会に出てから役に立つことを優先的に学べ、即戦力になることが一番の魅力。

(「少子化と高校のあり方」についての質問に対する生徒の発言)

- ・(15年後に生徒数が)71%になるデータを見てビックリした。少子化対策を日本全体で考えていかななくてはならないと思った。
- ・今後、学校が統合されるのは、いろんな人が集まって情報が共有されるからいいと思う。
- ・将来他の学校と統合するという話が出てきているが、それぞれの学校の良さだけは残して、いろんな学びができていけたらいいと思う。
- ・大町市で小中学校が統廃合する話が出ている。数年前、大町高校と大町北高校が合併して大町岳陽になり、使われなくなった大町北高校がCM撮影で使われたりして、別の事で再利用されている。人数が減って、まとめられるのは悪いことではないので、前向きに検討するのもいいかと思う。
- ・近いうちに合併が決まっていると思うので科を分けた大きな学校を造れば良いと思う。
- ・各校の入学者が減ったときは統合という考えも良いと思う。

(教職員)

- ・残念ながら定員を割ってしまっている現状であるが、生徒は目的意識を持って入ってくれている。本校の特長は少人数の授業展開で専門性を深め、資格取得ができるという強み。地域に残ってほしいという生徒が多い。
- ・穂商マーケットには1日1,000人のお客さんが来られ地域の期待が高い。生徒も地域に支えられていることを実感し、地域に貢献したいという思いが強くなっている。取引先、仕入れ先は地域の企業。
- ・商業科の生徒に「アップルパイを作って」と言うと、リンゴを買ってきてアップルパイを作るが、南農さんは「どの品種か」という。リンゴかオレンジかイチゴかって分けるのが商業科だが南農さんはどの品種のリンゴで作ればふさわしいアップルパイができるかという視点で意見交換をして非常に刺激になった。今でも、お互いの学びを共有している場面はある。
- ・学校規模があれば部活動とか人数が少ないことで出来ないことは改善されていくと思う。
- ・穂商商業は現状維持で構わないと思う。社会の中で生き抜いていく知識として他分野にわたって学ぶことも否定できない。
- ・3学級募集となり生徒へ目が届く。規模が小さいデメリットよりメリットを感じている。

(構成員の意見)

- ・物事は知識だけではなく実践と経験が結びついたとき価値の高い体験になって成長に繋がっていく。穂商マーケットの価値はすごく高い。そういう体験を通してホスピタリティーの精神を養えるのではないかと思う。
- ・日常の中の体験機会はアルバイト。アルバイトをした後に何かしらの自分が得た体験を報告するなどして、体験を増やしていければ、より純粋な生徒が育っていくと思う。
- ・各同窓会の方のお話の中で存続に対して熱い思いもあったが、それを選ぶのはこれからの中学生とか高校生になっていく生徒さん達。
- ・普通科と商業科の連携のように専門学科同士の連携とか、オンラインを含めたICTの環境が整備されている中において、遠隔授業であるとか複数の学校による連携・協働の取組は、今、すぐにでも出来

ることではないかと思う。

- ・各高校の説明を聞き素晴らしい特長があり無くしてはいけないと十分理解できる。生徒の立場に立つと、クラブ活動の人数が足りないなんてことを言わないような人数は最低でも欲しい。学校を無くすとか合併するとかいう考えは良くない、みんなが残るような方法はないか、うまく残っていく方法を考えるのがこの会だ。

## ② 中学生からの聞き取り（安曇野市立豊科南中学校）

【中学校で力を入れて取り組んでいること】

- ・中学校生活は、授業や友達との関係も含めてとても充実していて楽しい。
- ・あいさつは何時でもするものなので、見本となれるように頑張っている。

【卒業後の進路、将来の夢、なりたい職業】

- ・自分の学力に合っている高校に行きたい。人の役に立てる職業を目指していきたい。
- ・高校に入ってから色々な事をして、自分の好きなこと、やりたいことを見つけていきたい。

【高校に対して持っているイメージ（体験入学での感想含む）】

- ・高校は中学校生活よりも自分が好きなことがたくさんできると思うので、楽しそう。
- ・授業のスピードが速すぎてテストとか心配。先生との付き合いも心配。

【高校でやりたいこと】

- ・バスケット部に入っているが、ほかのこともやりたい。
- ・将来のことがよくわかってないので、高校に入ってから具体的に考えていければと思う。
- ・将来のやりたい職業が決まっているので、高校では自分のやりたいものを中心に調べたり学習したりしながら生活していきたいと思う。

【人口減少（生徒の減少）とこれからの高校に期待すること】

- ・高校が統合や廃校になると、進路の幅が狭まったり進学が難しくなってしまうのではと思う。
- ・高校の数が減るのはマイナスの気はするが、その分、一つ一つの高校の質が高まっていく。
- ・偏差値が同じぐらいならくっつけても問題ないが、通学に影響はあると思う。
- ・中学よりもできることが増えると思うので、いろんなことに挑戦したいと思う。

【高校について不安、知りたいこと、要望など】

- ・学費が高いせいで親から反対されたりして、行きたい高校の幅が狭まったりする。
- ・家から高校が遠いので、高校の方で生徒たちを送迎するような仕組みがあったら嬉しい。
- ・校舎が古いところが多いと聞くので改善してもらいたい。

【学校説明会に行こうと思った理由は】

- ・遠くても自分が行きたい高校に行くんじゃないかと思う。
- ・将来、自分がどういう仕事に就けるのか。高校によって変わってきたりすると思っている。

### 【高校を選ぶときに選択肢は十分か】

- ・これ以上増やさなくていいと思う。今の状態でも十分充実していると思う。
- ・私が行きたいところの偏差値付近の高校が遠いところが多くて、行きにくさがある。

### 「研究部会Ⅲの全体を総括した報告」より 構成員の意見

#### ○旧第 11 通学区の県立高校のあり方について

- ・教育改革は数合わせではいけない。公立高校の役割をはっきりさせる必要がある。
- ・人口減少に対応するには、学校は減らすべき。
- ・生徒の意見を集めるべき。
- ・子供が多様化しており、規模のある学校と少人数の学びを保障する学校の両方が必要。
- ・子供の成長段階では、いろんな人と触れ合うことが大切。
- ・この地域が好きの人をもっと積極的に集めていくことが重要。
- ・地域が、地域の学校にもっと関わりや当事者意識を持って考えていく仕組みが必要。

#### ○安曇野 4 高校に共通する点について

- ・地域住民や企業等との「交流」「関わり」「ふれあい」を非常に大事にし、そのことが地域住民の信頼につながり、各校の特色や魅力となって受け継がれてきている。
- ・地域を支える人材の輩出に自信と誇りを持っている。
- ・多様な生徒が入学してくる専門高校、普通高校ともに生徒が自身の将来の方向性を定めるために、より多種多様な分野の体験を含むキャリア教育の充実を強く求めている。
- ・急速に変化する社会、これからの困難な時代を生き抜く生徒たちの教育に対して、高等学校だけでなく地域全体で、その責任を担うことが必要である。

#### ○少子化に伴う今後の予想される生徒減・学級減について

- ・教科目と教員数、部活動等の縮小化を憂慮する声があるものの、専門学科は特にもともと「少人数」の学習環境で探究的な学びが伝統的に行われ、小回りの利いた体験的な授業展開ができ、教師のサポートも手厚いといったメリットが強みとなっている。
- ・落ち着いた雰囲気の中で安心し、自分のペースで学べる地域高校のよさを失うべきでない。
- ・各校とも募集定員が満たないことがある現実には強い危機感を抱いており、学校の魅力をより一層高めるために地域の力を借りながらも何とかしていきたいと考えている。

#### ○高校の統廃合について

- ・賛成、反対の両方の意見があった。
- ・生徒からは「少人数で質の高い学びが保障されるか不安で反対」「自校や他校の良さを合わせ持った、新たな学校づくりも有り」といった現実を直視する考えも示された。
- ・ICT 環境整備が進む中、バランスよく配置されている 4 校が相互に連携や学び合いによる魅力づくりは今すぐにでもできるはず。現状でもできることはある。

○旧 11 通学区に提案されている総合技術高校の設置について

- ・安曇野と隣接する旧 12 通学区だけでなく松本、そして旧 11 通学区全体でも考えるべき問題。
- ・既設の県内の総合技術高校においては、統合前の各校のよいものが引き継がれたのか、小回りが利かなくなっていることはないか、などについてしっかりと検証し、そのうえで新しい学校の必要性や具体的な姿、校地などについて丁寧に説明する必要がある。
- ・専門高校で長年その教育に携ってきた高校現場からは、六次産業化への対応など時代のニーズ等に合わせ学びの環境を整えてきており、農業と商業で交流する良さも語られたが、ぜひ設置してほしいという意識までは感じ取ることができなかった。学校や同窓会、地域への納得できる説明による理解と協力が必要である。

今回の意見聴取の中で、普通科の特色や魅力づくりの必要性についての意見も複数あったことから、専門学科とともに普通科のあり方も改めて問い直す必要がある。県全体の目指す教育ビジョンを県民全体が共有できるように説明し、地域の声をしっかり受け止めるとともに、一つ一つの疑問や要望に対して真摯に耳を傾け、丁寧に応えていくことが、これまで以上に求められる。

### 3 合同部会、住民説明会、量的・質的調査、意見聴取等の結果概要

#### (1) 合同部会

「安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会（以下、合同部会）」は、“一定の結論を出すものではない”という前提で開催された。

第 1 回、第 2 回の合同部会では、県教育委員会事務局から「少子化」「これからの産業教育に求められる専門分野の融合・協働の必要性」「総合技術高校」の説明がなされた。また、令和 3 年 3 月公表の「第 1 期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理（中高一貫校・総合技術高校 増補版）」では総合技術高校は今後も配置を推進する、とされているとの説明がなされた。

第 2 回合同部会では、県内の総合技術高校 3 校の学校長により成果と課題が示され、総合技術高校の優位性、高い専門性を担保しながら地域と連携した探究学習等の実践、高等教育機関への進学者の増加、地域の高い評価や期待などの成果とともに、学科融合の難しさや教員の多忙さ、生徒や保護者の理解、環境整備などの課題も示された。

これらの説明を踏まえた結果、合同部会では、「本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めた。」、さらに、「旧第 11 通学区高等学校教育懇話会では、本報告を踏まえた議事運営を期待する。」とまとめられている。

なお、以下のような意見も出された。

- ・少子化の状況を鑑みてスピード感を持って一刻も早く進めていくべき
- ・先行事例が抱える課題を踏まえて 2 キャンパスにはならない
- ・地域連携や高い専門性を追求する学びが展開できており、総合技術高校を新たに設置する必要はない、機が熟していない

- ・地域の枠を越えて安曇野エリアを一体として捉えるべき
- ・私立高校との関係を考慮した議論を展開すべき
- ・都市部存立普通校に対する改革も不可避
- ・子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯に向き合い、丁寧なフォローアップを
- ・責任ある意思決定が必要である
- ・住民説明会、研究部会及び合同部会の多面的・多角的な論点に真摯に対応すること

(総合技術高校を設置する場合)

- ・様々な課題(通学区問題、情報提供など)に対する方策を具体的に検討すべき
- ・積極的な情報提供を行い、中学生や保護者に選ばれる高校となるための方策を考える
- ・高校がなくなる地域が出てくることが想定されるため地域住民の理解を得るための方策を検討すべき

## (2) 住民説明会

### 【塩尻説明会】

- 現在行っているものを犠牲にしない形で行ってほしい。
- 高校改革について、すぐやるべきことは授業改善であり、じっくり取り組むべきことが再編計画である。再編にあたっては、地域エゴとも思えるような姿勢が垣間見られるが、全県的視野に立って、やるべきことはしっかりとやっていただきたい。
- 私立高校も巻き込んでしっかり議論を進めてほしい。
- 私立高校の授業料無償化もあり公立高校は人口減少以上に厳しいのではないかと。したがって、統合や閉校もやむを得ないとも考えるがデリケートな問題なのでいろいろな会議で意見を聞いてほしい。
- できるだけ多くの方が納得できるように考えてほしい。
- 「探究のネットワーク」とはどの程度のことを想定しているのか。学力で分けられているので交流がないと視野が狭くなる。交流を進めていくべき。
- 部員が確保できずに活動できない事例もあるが、部活動は高校生の成長にとって重要な役割を果たす。今後どのような形で県としてサポートしていけるのかも考えてほしい。

### 【松本説明会】

- 議論が大切。各地域において高校が地域と結びつく活動を行うというのは大切。情報共有、話し合いをしていかないと、今後を考えていくことができないのでは。総括を公表し、議論の継続を。
- 少人数学級という観点も入れてほしい。
- 個人的には、これから総合技術高校が求められると思う。統合は賛成。施設設備を整える必要がある。
- 麻績村からは通学時間がかかりすぎる。多様な学びの場が極端な通学時間にならないように考えてほしい。子ども同士の世界は大事。学校で関係を持てる再編を。
- 既存の高校(の施設を利用して)で中高一貫校を。

- 中山間地の人たちがどのような高校を望んでいるのか是非確認をしてほしい。また、中山間地に都市部から通学する生徒が何を望んでいるのかの確認を。

### 【安曇野説明会】

- ICT を使えば、統合しなくても多面的な学びが可能。住民は再編統合を望んでいない。少人数学級を考えてほしい。
- 農業は日本の原点。機械化を進め、農業学校5年制を。
- スポーツに特化した科をつくってほしい。私学はスポーツが盛ん。高齢化や福祉、街づくりの事も考え、公立でもスポーツや健康のことを学べる学校を。
- 少子化で統合には理解。ただ、適正規模という視点ではなく、このようなメリット・デメリットを考慮して統合案を出した、という話が聞きたい。
- 専門校は専攻科をつくるなど起業できる専門家を育てる高校を作って欲しい。
- 都市部や中山間地という区別は不要。11 通学区だけで考えるのではなく通学圏内の延伸化なども考慮した再編が必要ではないか。
- 生徒は自己コントロールできなくなっている。その結果、いじめや自殺が増えているのではないか。人間力を高めていく教育を。
- 農業にかじりついては限界。統合は結構。50 年前の農・工・商の垣根を超えた新しいやり方で進めてほしい。ただ、立地場所については安曇野市でお願いしたい。
- 中学校は（少子化で）大会参加ギリギリのクラブが出ている。学級数が少なくなった高校同士を統合することが必要。普通科の進学内容も魅力として考えてほしい。
- 公私のバランスを守ってもらいたい。
- 探究的な学びについて保・幼から中学校まで素地を作っていかなければいけないのではないか。このことをメッセージとして打ち出し、取組んでほしい。
- 商業と農業はこの地区で1校ずつしかなく、高校が残る方策を一緒に考えてほしい。
- 少子化で統廃合は当然であるが、農業は後継者がいないのが現実。農業の現場をどのように維持していくか不安である。
- 探究的、能動的な学びを進める素晴らしい取組。教育のパーソナライズ化が必要。
- オンライン教育などが普及し、ネット環境には魅力的なコンテンツが豊富でティーチング型のもものはオンラインで受講できる。教師は生徒とともに画面を見てコーチングに徹することが大事だと思う。
- 中学生の段階で普通高校、専門高校を決められない生徒もあり、入学後、考えていたものと違ったという生徒もいる。そういう点で総合技術高校に魅力を感じる。
- 農業は日本の基幹産業。県や県教委は農家に対する認識をどの程度持っているのか。農業高校に対し、教材、環境整備をどの程度認識してやっているのか。
- 地域に貢献できる人材の育成ということから言っても、やはり単独校を残す必要がある。東北信、中南信に少なくとも農業高校1校は残すべき。
- 少子化をプラスに考え1学級の人数を40人から減らす。1学級当たりの担任数は決まっているの

で教員数が増えれば、様々な要望を持った子どもたちの指導に手厚く答えることができる。ぜひそういった再編を県主導で行い、国を動かしてほしい。

- 関西から移住。(関西と比べ) 少ない選択肢から高校を選ばなければいけない。
- 探究的な学びはこれからの子どもたちにとってとても良い学びだが、指導者が魅力的でない子どもはついていけない。民間からの講師なども検討を。
- 専門的な勉強ができる専攻科のある都市部存立専門校にし、全国からでも来たいと思えるような学校にしていければ良い。統廃合の基準に合致したからと言って、すぐに統合、募集停止というのは短絡的。
- 支援が必要な大人数の中では学べない子どもたちが安心して学べる場を作ってほしい。
- 探究的な学びでは、何を探究するかが大切。県立高校として、信州の将来を担う生徒が育ってほしいということが盛り込まれていない。チャンスととらえ、これからのハードウェアとソフトウェアをつなげてほしい。
- 農業は農業高校だけで学ぶのではない。豊科高校でもプロジェクトをすればよい。普通科にたくさん行くので普通科というのは単純すぎる。
- 総合技術高校は南農、穂商だけでなく広域的に池工も合わせ3校が納得した形で一つにまとまらなければうまくいかない。また、ロケーションも大切。

### (3) 量的調査

#### アンケート分析結果(中学生) 概略

- 進学したいと思う高校について、以下の傾向が認められた。
  - ・「家から通学できる範囲にある」と回答した割合が89%と多かった。
  - ・「県立(公立)」を回答した割合が55%と最も多かった(「わからない」22%)。
  - ・「旧第11 通学区内」と回答した割合が86%と最も多かった。
  - ・「全日制」と回答した割合が51%と最も多かった(「わからない」36%)。
  - ・「普通科系」と回答した割合が45%と最も多かった(「わからない」32%)。
  - ・進学を希望する理由として、「その高校に進学することが、卒業後の進路選択に役立つため」と回答した割合が30%と最も多かった。
- 高校を選択する時に大切にしたいキーワードを3つ以内で選択する設問について
  - ・30%以上の生徒が選択した項目は、「高校卒業後の進路(42%)」「部活動(36%)」「学校の校風・雰囲気(33%)」「友人関係(33%)」「授業の内容(カリキュラム)(31%)」であった。一方、「少人数教育」「寮や下宿」「地域等との連携」を選択した生徒は相対的に少なかった。
  - ・2年生より3年生の方が「学校の校風・雰囲気」との回答が多かった。
- 本調査の性差として、以下の傾向が認められた。
  - ・希望する高校について女性は「普通科系」の回答が多く「専門学科」の回答が少ない。

- ・高校を選択する時に大切にしたいキーワードとして、女性は「学校の校風・雰囲気」、男性は「友人」を重視し、「制服」を軽視することが認められた。
- 本調査の地域差として、以下の傾向が認められたが、統計学の観点では顕著な学年差、性差、地域差は認められなかった。
  - ・進学したいと思う高校がどこにあるか、と言う設問では、麻績村では「旧第 11 通学区内(松本市, 塩尻市, 安曇野市, 東筑摩郡)」の回答が少ない。
  - ・進学したいと思う高校の学科を問う設問では、安曇野市と生板村、麻績村では「専門学科系」の回答多く、塩尻市と朝日村では「総合学科」の回答が多い。

#### 【自由記述部分】

部活動や制服、生活、校則に関して、具体的な記述が散見された。記述例は次の通り。

- ・学校施設を綺麗（特にトイレの記述多数）にしてほしいです！
- ・風紀の良い、学習や部活動を楽しめるような学校
- ・公立高校にも制服を作してほしい
- ・校則を全体的に緩くしてほしい
- ・頭の良い学校は授業が難しそう
- ・授業内容が少し難しいと思います

#### アンケート分析結果（高校生）概略

- 学校の満足度を5段階[Aとても満足 B満足 C普通 D満足 Eとても不満]で回答する設問では、
  - ・AとBに回答した生徒は全体の6割弱を占め、AとBとCに回答した生徒は全体の9割強を占めており、現在の高校生活に満足している傾向にあることが示された。また、マルチレベル分析と決定木分析から、次のことが示された。
    - 学校満足度の「学年差」と「性差」は学校間でばらつきが認められる。
    - 1年生の学校満足度は他学年よりも高い。
    - 学校満足度の性差はほとんどない。
    - 高校の選択理由が「学校の雰囲気がよかったから」である場合、現在の「学校の校風・風土」に満足していると学校満足度が高い。
    - 高校選択理由が「学校の雰囲気がよかったから」でない場合には、現在の「部活動」に満足していると学校満足度が高い。
- 学校生活の満足度を左右している要因を3つ以内で選ぶ設問で、30%以上の生徒が選択した項目は、「友人関係(50%)」「部活動(40%)」「学校の校風・雰囲気(35%)」「授業の内容(カリキュラム)(33%)」である。一方、「地域等との連携」と「SDGsなどの社会課題への取組」、「少人数教育」を選択した生徒は相対的に少なかった。
- 現在の学校を選択した理由として当てはまるものを全て選ぶ設問においては、「学校の雰囲気がよ

かったから(38%)」、「合格できそうだったから(33%)」、「自宅から近いから、通いやすいから(29%)」を選択した生徒が相対的に多かった。一方、「塾、家庭教師の先生にすすめられたから」、「友人が選択していたから」、「中学校の先生にすすめられたから」を選択した生徒は相対的に少なかった。全国調査(第16回21世紀出生児縦断調査【平成13年出生児】平成29年(2017年)調査)の同じ設問の結果と比べると、「自宅から近いから、通いやすいから(全国40%、本調査29%)」「卒業後の大学進学等に有利だから(全国24%、本調査16%)」の項目で差があった。

#### 【自由記述部分】

- ・公共交通機関の「増便」、校舎や設備(特にトイレ)の改修を求める文が多かった。
- ・公立高校でも制服が欲しい、という記述も目立った。
- ・授業に対する要望(先生によって分かりやすさが異なること、講座によって進度等に差があること、自分に合った先生を選びたいこと、オンライン、少人数等)の記述があった。
- ・個性の尊重や、身だしなみ等に対する校則についての記述も目立った。

### 小中高PTA及び同窓会

旧第11通学区の高等学校に期待することを3つ以内でチェックする設問に対するチェックした人の割合は、「探究的な学び」については高校同窓会役員回答者の選択率が最も高かった(33.3%)。また、「地域と協働した学びの推進」については高校同窓会役員回答者の44%が選択したのに対し、小中PTA役員は10%に満たなかった。また、「学びに向かう力・人間性等の涵養」については、小中PTA役員の40%~50%が選択したのに対し、高校同窓会役員回答者は16.7%の選択にとどまった。その他の項目については大きな差は認められなかった。

#### (4) 質的調査

##### ■自由記述(旧第11通学区のこれからの高校教育のあり方(高校配置を含む))の要約

##### (小学校PTA役員)

- しっかりと計画し、共有して行ってほしい。
- 統合はアクセスも考慮を。専門高校は時代に求められる学科の設置、教育内容を。
- ①大学進学②就職③短大や専門学校進学、子供達のこれらの選択肢が在学中にできるような幅広い高校の体制が整えば、皆さん納得できるのではないかな。
- 子供の減少により統合は仕方がない。SNSを駆使して外に発信して。
- 高校が自分のやりたいこと、なりたい職業を見つけられる学びの場であることを願う。
- 新しい時代の流れに沿ったやり方で、改革は大変だと思いますが頑張ってもらいたい。
- 予算も含めて教育にかかる熱量の抜本的見直しが必要。今の高学歴社会にも問題あり。
- 探究科は特色が分かりやすく、公立進学校の普通科生徒が専攻できるなど、今までとは違う学びが必要。他に、高校に馴染めない子の通うフリースクールを担う高校が必要。
- 同窓会と一緒に考えていくべき。

- 学校数の削減、魅力的なカリキュラム等、時代に合わせた改革が必要。
- 各校とも偏差値ではない部分でも特色を付け、多様な進路の選択肢を示して。
- 少子化による再編をチャンスに。
- 県内の高校のレベルは全国の高校生と戦える学力が備わっているのか疑問。
- 勉強も大切ですが自己形成においても重要な年代。
- 時代の変化に沿いつつも、効率ばかりでなく多様な選択ができる方向性を希望します。
- 部活動の発展を期待。
- 公立でも私立に近い活動を行い、志望校選択や各種大会の盛り上げへと繋がる。部活での経験が人の痛みがわかる人間となり夢への挑戦へと発展していく。
- アンケートを実施してくださることに感謝。
- 身体、知的・学習障害、何らの不登校児の受入校・学級が増え選択の幅が広がればよい。
- 家庭環境が多様化し転校を余儀なくされる子ども等の学ぶ権利を守る仕組みを考えて。
- 私立高校との分け隔てなく学校活動の活性化の為、何か共有できる活動指針の検討。
- 他都道府県も参考にされながら教育に力を注ぐ県としての特色も出していけると良い。
- 一般の人にも受け入れやすい言葉や表現にして周知しないと本当の意味でも高校教育の在り方を実現できないのでは。多くの人が参加（意見交換）できるようなわかりやすい説明が必要。
- 普通科は卒業すればいいだけの学校になっている。
- 都市部存立普通校の規模は5クラスで良いのではないのでしょうか。
- コロナ禍もあり大都市集中は見直されると思う。生まれ育った地域で、世界と戦えるだけの力を付けることが期待できる学校があるとありがたい。
- 総合技術高校が旧11通学区にできると選択範囲が広がっていい。
- 学力向上も大事だが、生きる上で大切な事を学び、輝ける場所であってほしい。
- 高校生の時期は自分に肯定的に共感してくれる友を得られるかが大切。勉学とともに心の成長も得られる場所として高校には大いに期待。
- 幅広く選択できる高校配置(行きたい、学びたいと思える高校)を期待。
- 全国での競争という現実を踏まえた学力レベルの維持

### (中学校PTA役員)

- 生徒減を負に捉えず、少人数で手厚く、先生と生徒の距離が近く、人間性を磨く教育を。
- 区内の私立高校は特色を生かし生徒の面倒見もいと聞く。私立と住み分けをしつつ、公立の良さをもっと生かし、生徒に還元してほしい。多様な生徒に多様な学びの提供を。
- 私立高校は定員を満たしているのに対して、県立高校では定員割れの学校も多いため、県立高校の魅力ある学校づくりと公私協調への取り組みを期待。
- 高校入試のハードルが低下（倍率低下）し、高校のレベルが下がる懸念
- 社会に出た際のモラル・マナーを学生時代に養うと良い。また、資産運営の知識も必要。
- 新しい発見や将来に繋がる自分の進むべき足がかりになる所であって欲しい。
- 翻弄されず主体的に社会と関わる強い精神力、夢の実現に向け様々な体験をし、ストレングスを見つ

けられる環境が必要。

- グローバル世界に通用する人材育成が必要。
- コミュニケーション手段・技術はより高度に。新しい教育で上手に活かして。
- 高校生活において社会の知識・見識が備わるよう導く必要がある。
- 小規模高校は、小規模のメリットを分かりやすく示す必要がある。
- 中信に総合技術高校がないので、そういう学校を継続(新設)できるようにしたらよい。
- 大学進学のための高校教育からの脱却。理想は、将来何になるかを見極める為に時間を費やす場所。
- 通学が困難で行きたい高校を諦めずに選択出来るように、寮なども一緒に考えて。
- 自主性を言い訳に生徒任せにせず、教師が十分生徒に関わり将来を考えられる場に。
- タブレット学習ばかりが先行せず、人間との関わりを大切にした教育を。
- 普通校については適正な数、規模の設置が必要。
- 再編ありきでなく地域の実情、教育の質の向上、公平性など多角的な視点で議論を期待。
- 偏差値でなく教育内容によって本当に学びたいと思える学校を選択できるよう充実を。
- 再編ありきでなく学ぶ環境やそれぞれの学校の良いところが失われないよう配慮を。
- 公立高校にも専門知識を得られる科があってもいいのでは？
- ITがますます必要不可欠。全生徒にタブレットを支給しての授業は出来ないか。
- 教科の知識も大切だが、将来を見据えて専門的な学びの場をもっと増やして欲しい。
- 専門的な知識の習得ができる学校が増えればと思う
- 高校は、興味、意欲を持って将来を見据える環境であって欲しい。「自分は何ができるか」という答えがはっきり出せなくても、それを見つける場、教育であって欲しい。
- 特色ある魅力ある高校、高校教育をはっきりわかるようになると良い。
- 人数が多いからこそできることを高校では学んでもらいたい。
- 統合することで古い施設や建物を更新し、安全安心な環境を整えていく必要もある。
- 中山間地存立校については遠方まで通学できない子たちの為に残して欲しい。(地域キャンパス化しても)都市部存立校は隣接校、例えば南農・穂商など通学などを考慮して合併もあり。専科については考える必要あり。
- 現実をみると再編は避けて通れないが、高校教育の質の保証をしっかり守る改革に。
- 子どもの減少は根本的なところから考えないといけない。
- 高校教育に地域差はあってはならない。将来を考えた希望校がないのはかわいそう。
- 発達障害の生徒の学びの場も考え、特性を生かしながらの生活が可能に。
- 現在の高校の特性が見えない。

### (高校PTA役員)

- 専門校のより高度なスキルアップと普通校のキャリア教育を実践できる教員の育成。
- 現状詳しくありませんが、無理な改革は必要ない。
- 地域に根付き普通、専門などの特色を持ち、職業選択に役立つ高校であって欲しい。
- 子供が少なくなり、子供たち1人1人に寄り添う学習ができる時代。少なくなるから統合してしまう

というのは安易な考え。

- 少子化の中で私立に対抗できる改革がなければ県立はいずれ再編統合や廃校となる。
- 学校を途中で辞めてしまう事がない様、さまざまなサポートの充実が必要。
- 学校の減少で公共交通機関での通学が不便になってしまう事もあると懸念する。
- 小中のコミュニティスクールのように高校も地域の方の協力、親が関わる環境が必要。
- 再編基準が絶対でなく、地域ごとに私立と公立の配置バランスを配慮した再編を。
- どの高校も同じ授業内容ではなく(特に普通科)、進学・就職などそれぞれの進路に合った内容を学べる特色ある高校教育が必要。
- 誰もが起業する可能性が高まっている今だからこそ、アントレプレナーシップと学び・教養との結びつきを視野に入れて欲しい。
- 衛星予備校の台頭のように受験前提の学習であればリモートでのオンデマンド学習も効果的。一方、部活動を含む集合学習も必要で、それらの効率的バランスが必須。
- 専門校は技術や知識が習得でき、生徒の学びへの意欲も高い。在学中の生徒、同窓会、他校の専門校、地域のつながりを含め様々な方々の意見を総合的に考える必要がある。
- 総合技術高校の方向性は良い。一方で、理数系に特化した専門校は私立でもあまり聞かない。より求められる分野と思いますので、推進されればと思っています。
- もっと自ら考えて行動する力を養える教育を。
- 統合で通学が不便になりすぎないように、地区ごとに学校を残してほしい。
- 少子化時代の背景を逆に強みとし、きめ細やかな教育、生徒の将来を見据えた対応を。

### (高校同窓会役員)

- 通学区は過去何回か変更した経緯があり、子どもの数が減っている現在考察は必要。
- 今始めても5年はかかるので再編の検討をお願いします。
- 専門校は拠点校の位置付けを明確にして集約を。出来れば総合技術高校ではなく。
- 自宅から通学できる環境は大切。公共交通機関やその手段が減っていく中で、地域の協力が得られれば学校までの送迎などあるといい。(お金の問題になるとは思いますが)
- 自由で楽しい学校生活を送りながらも、具体的な目標を持てる教育をしてほしい。
- 再編計画の方向で「規模の大きさを活かし」となる6クラスを確保する必要がある。
- 地域と連携し、地域の魅力や若い力を地域が必要としていることを生徒に伝え、生徒が他県へ流出することなく地元に残り、地域で力を発揮したくなるように教育を。
- 先生と生徒の関係性において、お友達では無く、生徒と恩師である事を望みます。
- (松本)市内校ばかりでは困る。県立高校も特色を出していくことが大切。スポーツ・芸術等私立高校は力を入れているので私立を選択する生徒も多いようだ。
- 3クラス30人学級で定員割れまで存続できないか。
- 公立の先生は1人三役など複数の業務を兼ねていて大変苦労している。
- 地域連携の一環として部活動以外の交流で地域の団結心の向上等が図られればよい。
- 都市部の農業、工業高校は単独で残すべきと考えるか総合技術高校の保護者やOB、教師等に本音で

感想を述べて欲しい。

- 高校は地域の活性化も考え配置すべき。中山間地校は配置の必要性があると思わない。
- 小中と比較すれば高校は教育的ゆとりがある。進学も就職も教員の指導力向上に期待。
- 施設面で私立に引けを取らず、カリキュラムでも私立にない選択ができるように。
- 少子化が進んでいるので再編は必要。

### 高校生フォーラム（公私17校32名の生徒によるオンラインフォーラム）

○高校をどう選択しているか（自分はどう選択したか）？

- ・多様な背景を持った人を受け入れてくれる学校 ・お金がかからない学校
- ・学力があっている、勉強せずに自分の学力で行ける学校 ・部活 ・学校の雰囲気
- ・探究活動を通して将来したいことを見つけるため ・将来の受験勉強に打ち込める
- ・商業、総合学科などに興味、専門科目をやりたかった。 ・早く決めたい
- ・自宅から近い ・地域活動が豊富なところに魅力 ・資格取得 ・周りに流されて
- ・学校プレゼンが魅力だった ・将来就きたい職業や大学のため
- ・勉強以外に楽しむことができることが決め手 ・将来を考えると稼げるのはIT

○急速に学びが変化していることは感じているか？

- ・デジタルを使って学ぶことが増えた ・英語でのスピーキングの時間が減った
- ・内容は変わらない ・暗記型から思考・記述型に変わった ・グループワーク増えた

○高校時代に勉強以外にやるべきこと、経験してよかったことは？

- ・社会活動、若者でしか出来ないこと、人間関係、アルバイトなどの社会経験  
(アルバイトについては、学業とバイトの両立で課題も指摘された)
- ・部活動の存在が大きく、同じ境遇にいる仲間と関係性をつくれたこと
- ・皆で1つのものを創り上げる方法を学ぶ経験ができたこと
- ・良い仲間と出会うことができた ・授業外の活動は大切
- ・受験は大切だが、地域との活動があれば地域全体で何か成し遂げる＝達成感
- ・高校は社会に出る前、礼儀マナー・配慮を身につけられる
- ・(後輩には)今の自分たちが思いつくより沢山のことに挑戦してもらいたい

○どんな高校に行きたい？どんな高校が魅力？どんな高校を作りたい？

- ・校舎がきれい ・個性を受け入れ個性あふれる学校 ・説明できない校則はやめる
- ・明るい雰囲気の学校（生徒の態度が良い、挨拶あふれる学校）
- ・コミュニケーションが取りやすい学校 ・学力に合わせたクラス分け
- ・やりたい事ができる ・主体的に動ける学校 ・芯を持って動く、対話的な授業

○普段の勉強は楽しい？

- ・先生から言われたことはするが、自主的は好まない ・授業スピードが合わない

○こんな学びがしてみたい、どんな学びが魅力か？

- ・生徒が主体的に行う授業 ・興味ある教科を選択して学べる
- ・まんべんなくいろんな勉強ができる。・プログラミングなど実践的なことができる
- ・座学だけでなく職場体験や地域社会に出ていく勉強 ・自分で学ぶ環境が必要
- ・実験やフィールドワーク、座学だけでつまらない
- ・販売実習など地域とのコミュニケーションを大事に

○少子化が進むとどうなるだろうか、学校の統廃合についてどう思うか？

- ・子供が減れば年金制度などが限界になり日本が苦しくなる
- ・子供が希少価値 → 子供がレアな存在、地域の伝統文化が失われる
- ・高校が減少すると、高校の選べる幅が狭くなるため教育の質が低下
- ・子供減で予算がなくなり、施設や備品が悪くなり、結果として生徒のストレスに
- ・地域力が低下 ・統合で家から遠くなる ・統合反対
- ・少人数の方が今の社会の需要に合う ・今は（クラス）30人いるが多い

## 4 意見・要望

本項は、旧第11通学区高等学校教育懇話会での議論、高校関係者からの聞き取り、生徒アンケート調査等により明らかになった論点を踏まえて、懇話会で示された意見・要望をまとめたものです。

県立高校は、一定の募集定員のもとでカリキュラムを編成しますが、小規模化により進路に対応した教育課程の編成や講座編成に支障をきたすようになっている、という深刻な報告がありました。社会の変化と少子化の進行のなかで、県立高校の学習環境をどう整備・充実させていくことができるか、その方針のあり方は、結果として地域の将来像にも大きな影響を与えると考えられます。

県教育委員会には、以下の意見・要望の内容を踏まえた上で、地域住民や関係者の十分な理解を得つつ、県立高校の学びの改革と学習環境の整備を、スピード感を持って推進していかれるよう要望します。

### (1) 高校の学びのあり方について

#### ① 探究的な学びの推進について

- 全ての県立高校において、これからの時代に必要とされる新たな学びとしての「探究的な学び」を推進していくためには、地域や外部団体・機関と協働していくことが重要です。また、生徒同士の学び合い、他者と協働した学び、地域社会における体験を通じた学びなどととも、ICTが適切に活用され、多様な生徒に個別に最適化された学びを推進していくことが求められています。
- 新たな学びへの転換に伴い教師に期待される役割も変化していきます。具体的には、生徒に既存の知識を教授する役割だけでなく、生徒の学びを導くファシリテーター（促進者）、生徒の学びを支える伴走者としての役割が求められています。ここでは、新たな学びに対応する授業改善や教員の資質・能力向上のための研修をより一層充実させていくことが不可欠となります。
- なお、卓越性の伸長やアントレプレナーシップ（起業精神）の涵養など、より高いレベルの教育を行っていくべきとする意見が出された一方で、学歴社会への警鐘を鳴らす意見も出されました。また、地元産業界が求める人材のあり方として、即戦力となる専門性の高い人材の育成を重視すべきだとする意見、地元の中小企業のビジネスパートナーが世界に広がる中ではリベラルアーツ（幅広い教養）が大切となるといった意見も出されました。

#### ② 地域連携の推進について

- 高校における「探究的な学び」を効果的に進めていくためには、実社会や実生活のリアルな体験・経験等によって興味・関心を一層高め、生徒自身がワクワクしながら

主体的に学びを進めていくことが大切です。そのためには、高校と地域や外部団体・機関が連携することで、地域人材や地域資源を最大限活用できる環境を整備していくことが求められます。高校生が、地域を通じて学び、地域を理解していくことは、地域社会にとっても地域創生や地域づくりに資するものとなります。

- 今後は、これまで各高校が築いてきた外部団体・機関との連携をさらに充実させるとともに、コンソーシアムや協議会を設けることで団体・機関間の横のつながりを強化したり、幼・保・小・中など同じ地域のさまざまな教育機関等が協働するなど組織的な連携の仕組みを構築していくことが必要となります。また、社会に開かれた教育課程やカリキュラム・マネジメントの観点から、コミュニティ・スクールを積極的に導入していくことも検討すべきだという意見も出されました。

さらに、「キャリア教育」や「地域」をキーワードに、初等、中等、高等教育機関が連携を深めていく取組も、発達段階に応じた教育を体系的に行っていくという意味で効果的です。

なお、外部との連携を推進していく上ではコーディネーターや外部人材の登用が極めて重要であり、働き方改革の観点からも、予算措置など負担軽減の仕組みを並行して構築していくことが必要です。

### ③ 普通科の学びの充実について

- 中学校での聞き取り調査などから、中学生や保護者にとっては県立の普通科高校の特色がわかりにくいこと、高校の選択が輪切り（いわゆる偏差値）によって決められているという意識が強いことが改めて明らかとなりました。長野県の全ての公立高校では新学習指導要領に示されたカリキュラム・マネジメントの考えに基づいて各校の教育活動を体系化するとともに、それを教職員・生徒・保護者を含めた地域社会と共有するために、「3つの方針」（「生徒育成方針」、「教育課程編成・実施方針」、「生徒募集方針」）及び「グランドデザイン」を策定していますが、中学生や保護者に十分に届いていないのが実態のようです。今後、高校の学習内容や学習方法等に目を向けた進路選択が行われるよう特色ある学びを展開し、各校の魅力を積極的に発信していくことが急務となっています。

- 普通科高校に関しては、令和4年4月1日から施行される制度改正<sup>※1</sup>によって、普通科以外に「学際領域に関する学科」「地域社会に関する学科」など、特色・魅力ある学科の設置が可能となります。これらの制度の活用も積極的に検討し、各校の学びの内容・方法の特色化などを通じて、中学生や保護者、地域の多様な思いや期待に応える高校づくりを進めていくことが重要です。

---

<sup>※1</sup> 令和3年1月の中央教育審議会答申等を踏まえ、高等学校の特色化・魅力化など、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等が公布され、令和4年4月1日から施行されます。

#### ④ 専門学科の学びの充実について

- 地域内の農業、工業、商業の専門高校は、いずれも6次産業化など時代の変化に対応した学びのあり方を模索しながら、地域に根差した学びを積極的に展開しています。また、専門高校は実践的・経験的な学びを実現することで地域づくりの拠点としても位置づいており、専門高校は地域と地域産業を支える重要な存在となっています。
- 今後は、専門高校と普通高校が連携した「探究的な学び」の実践や、地域の小中学校と連携したキャリア教育などを通して、これからの社会に対応した専門教育の一層の充実が求められます。そのためには、生徒の職業選択や希望あふれる将来につなげられるよう、専門教育が最先端技術や最新情報を含めた学習内容や学習方法に常にアップデートしていくことが不可欠となります。

#### ⑤ 特別支援教育の充実について

- 県立高校の発達障がいのある生徒の割合は、年々増加（平成20年度 263名⇒令和2年度 1,545名）していますが、校内組織の工夫でなんとか対応している学校が多い状況にあります。また、中高校長会が連携して対応しているものの、支援が必要な生徒の中学卒業後の進路について課題があることも浮き彫りになりました。様々な合理的配慮を必要とする生徒の増加に伴い、特別支援学校高等部や分教室、通級指導教室などの整備とともに、専門知識を有する人的配置等の拡充を要望します。
- また、多様な背景を持つ生徒（身体障がい、知的障がい、学習障がい、不登校、セクシャルマイノリティ、日本語が母国語でない等）の学びに対するサポートが高校進学時に分断されることがないように、切れ目のない支援を一層充実させていくことを求めます。
- さらに、義務教育段階の特別支援教育の取組を活かすことで、高校進学後も生徒の特性に応じた支援を維持していくことのできるような仕組みが必要であると考えます。県と地域が早急に情報共有を行い、小中学校と高校をつなぐコーディネーターの配置など、その仕組みづくりを協働して実現していくことを要望します。

#### ⑥ 施設・設備の充実について

- 生徒に対するアンケート調査等からは、トイレの改修や専門高校の設備更新について切実で強い要望がありました。トイレは年度ごとに順次改修され、専門高校についてはデジタル化に対応した産業教育装置が重点的に整備されているという報告もありましたが、最先端の学びに対応していくためにも学習施設・設備の一層の充実が望まれます。

- また、高校のデジタル化対応としては、全普通教室への電子黒板の設置、一人一台端末の実現に向けた取組など努力していただいているところですが、GIGA スクール構想における一人一台端末で学んだ小中学生が今後高校に進学していくことを踏まえて ICT 環境の整備をさらに積極的に進めるとともに、ICT に関わる教職員の研修を充実させていくことで、一人も取り残されることのない学びを保障していくことを強く要望します。

## ⑦ その他

- 県立高校は、子どもたちの学習機会を保障し学力を向上させていくという重要な役割を担っています。また、全人的な発達・成長を促し、社会に出る前段階としてのモラル・マナーをはじめ、人権感覚や主権者意識を養っていくことも重要です。
- 県立高校は数多くの魅力的な探究学習の取組や魅力ある行事を行っており、マスメディアでも高校の日々の取組が連日取りあげられています。他方で、その魅力や特色が必ずしも中学生や保護者に十分に伝わっていないという意見もあります。今後は、学校の教職員だけでなく、学校の生徒自身が中学生にその学校の特色ある学びや各種教育活動の魅力を伝える機会を設けるなど、情報発信についても、一層の工夫が求められます。
- また、県立高校では働き方改革や新型コロナウイルス感染症への対応などから部活動などの課外活動が縮小している、という指摘がありました。部活動を自己実現のための活動と位置付けて高校を選択する生徒もいるため、今後の高校の部活動のあり方や全国的に課題となっている部活動の地域・社会活動への移行について、地域の社会・教育活動、生涯学習など多様な観点から地域が一体となって検討していく必要があります。

## (2) 高校の配置のあり方について

### ① 基本的な考え方

- 都市部存立普通校や専門校については、授業における協働的な学び、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動等の教育活動の一層の充実や、生徒同士のコミュニケーション能力の質的向上の観点から、一定程度の規模（「実施方針」には、「都市部存立普通校の募集定員は 240 人以上が望ましく、可能であればさらに規模の大きさを活かせる募集定員 320 人規模を目指す。都市部存立専門校の募集定員は 120 人以上が望ましい。」とある（P61）。）を維持していくことが重要です。このため、今後予想される社会の急激な変化や少子化の影響を考慮した場合、県立高校の都市部存立校の普通校、専門校のいずれにおいても何らかの形での再編は避けることができない状況にあると考えます。

- 他方で、生徒の多様な学習ニーズに応えられるような学びの機会を保障していくことは、長野県及び県教育委員会に課された重大な責務です。従って、現在、本地区に設置されている普通科、専門科（農業、工業、商業）、特色学科、総合学科、多部制・単位制（定時制）、通信制の学びは引き続き維持・充実させていく必要があります。
- 今後は、都市部存立校と中山間地存立校の役割分担と適正な配置がより一層重要となります。都市部存立校には、規模の大きさを活かして生徒同士が切磋琢磨できる環境の整備が、また、中山間地存立校には、地域との強い連携関係に支えられながら「地域そのものを学びのフィールドにする」構想など、特色ある学びの場を創造し、地域との協働的な学びが実現できる環境の整備が期待されています。なお、中山間地存立校には小規模という特色を活かして、例えば、人間関係にストレスを感じる生徒が少人数で学ぶことができるような機能を明確に持たせたらどうかという意見もありました。
- 旧第11通学区には私立高校が多いという特色があります。令和3年度においては、募集定員の公私比率に対して入学者数では私立の比率が増加する状況や、中学校からの聞き取り調査等からも、私立高校を第一志望とする生徒が徐々に多くなり、県立の後期試験を受験する生徒が少なくなっている状況にあります。このことは、本地区の私立高校は中学生の多様なニーズを受け止めた学校づくりを精力的に進めていることが背景にあると考えられます。  
 公立高校と私立高校の関係に関しては、両者の連携や協調を維持すべきである、という意見が大勢を占めましたが、より競争的な環境に置かれるべきとする意見も出されました。  
 なお、私立高校に対しては、高校等における教育に係る経済的負担の軽減を目的として高等学校等就学支援金制度が制度化されていますが、実質的な負担額について保護者等に丁寧かつ明確な説明が必要であるという意見も出されました。

## ② 都市部存立普通校のあり方について

- 松本市以外（塩尻市及び安曇野市）の都市部存立普通校は、全ての学校において令和3年度の募集定員が望ましいとされている240人より少なく、今後予想されるさらなる小規模化に伴って十分な教員配置ができないなどの不具合や特別活動の活力の低下などが危惧されます。本地区においては、「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」の「再編の方向」の記載のとおり、松本市を含め、塩尻市、安曇野市の3市においては適正規模の都市部存立普通校を設置していくことが望ましいと考えます。
- 高校再編により高校がなくなる地域は過疎化の進行が加速するという意見も出されました。そして、そのような状況を回避するためには、将来的には、都市部存立普通校が集中する松本市の普通校も含めてすべての都市部存立普通校の再編を検討していくべきであるという意見も出されました。

### ③ 都市部存立専門校のあり方について

- 松本工業高校は、本県及び当地域のものづくり産業の人材育成等に多大な貢献をしています。社会の変化に伴って期待される工業教育が今後大きく変化していくことも予想されることから、松本工業高校には地域産業が求める人材の育成、最先端の知識や技術の習得などの必要性を踏まえた小学科の構成や教育課程の見直しなど、新しい時代に生きる高校生や産業界から期待される工業教育を積極的に展開していくことが求められています。
- 南安曇農業高校と穂高商業高校は、地域と共に歩む学校の姿が聞き取り調査やアンケート調査等を通じて明らかになり、両校が地域にとって欠かすことのできない高校であることが改めて認識されました。一方で、今後の少子化の進展に伴って小規模化が進むと、例えば、コースを限定せざるを得なくなるなどの専門教育の機能や魅力の低下を招くだけでなく、生徒会活動や部活動等を含む教育活動の活力の低下が危惧されています。

両校については、広域的・多角的に検討するため（「実施方針P55、58」に記載）、懇話会と隣接する旧第12通学区の地域協議会「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」とが合同で「安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会」を設置し、「隣接する地域にある3校の専門高校の活力ある専門教育のあり方」について3回の検討を行いました。3校（南安曇農業高校、穂高商業高校、池田工業高校）の再編を想定した総合技術高校の設置については、6次産業に対応した専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力を育成していくことや、学科が連携して行う地域協働学習に対して大きなメリットがあることのほか、学科間連携への理解が深まっていないなどの課題も共有されましたが、合同部会からは、「本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めた。」という報告がなされました。懇話会としては、合同部会での集中審議を通じてまとめられた報告を真摯に受け止める必要があることが確認されました。

他方で、改めて本懇話会で議論すべきであるという意見も出されました。

なお、総合技術高校については地元の理解が十分進んでおらず決定は時期尚早であるという意見や両校が立地する安曇野市関係者や同窓会関係者を中心に両校の単独存続を求める声もありました。また、地域活性化の観点からも地域に根差し地域と共に歩んでいる両校を何とか存続させる方法はないか、例えば、少人数学級を導入して高校を存続させていくことはできないかという意見も出されました。

地域から高校がなくなると地域の活力や活気が失われるという切実な思い、寂寥感や郷愁は十分に理解でき傾聴に値するものです。一方、両校の小規模化がさらに進んで2学級募集が続くと、実施方針で示されている再編の基準に該当するだけでなく、専門校としての現在の機能を維持していくことが困難となることもまた事実であり、

このまま単独で存続させていくことだけが専門教育の維持・充実のための方法だとは言えないという意見が出されました。また、単独存続に関しては、長野県の未来の高校生にとって本当に良いことか、真に地域のためにならないのではないかという意見も示されました。

また、中学生の中には、自分の適性や将来の職業を想像して高校を選択することが難しい人もいるため、高校入学後に学びながら学科を決めていけるような柔軟なシステムも魅力的であるという意見も出されました。

県教育委員会は、これらの重要な意見にも十分配慮しながら、専門高校の配置のあり方を様々な観点で検討した上で結論を出されるよう強く望みます。

#### ④ 中山間地存立校のあり方について

- 梓川高校と明科高校の2校の中山間地存立校は、地域に根差し、地域と共に歩む高校であることが改めて明らかになりました。梓川高校は、地元中学校の占有率が高く、生徒の興味・関心や進路希望に合わせて、「教養コース」、「福祉コミュニケーションコース」、「情報ビジネスコース」の3コースで多様な教育を行っています。また、様々な体験学習や生徒会活動を通して生徒は大きく成長しています。

また、地域活性化の担い手として地域の期待も大きい明科高校は、小規模ならではの少人数講座や丁寧な個別指導を実施しており、生徒は安心感のある学校生活を送っています。

- 両校とも、地域課題の解決を目指す「探究活動」や地域に根差した「信州学」等の学習活動を通じて更に地域に密着した学習活動を展開するとともに、中山間地存立校として地域そのものを学びのフィールドにすることをさらに実質化するなど、引き続き魅力化を進めながら存続させていくことを要望します。

#### ⑤ 定時制・通信制のあり方について

- 定時制・通信制については、働きながら学ぶ生徒数は近年減少し、全日制課程からの進路変更者や不登校経験者、過去に高校教育を受ける機会がなかった方など、多様な方々が学ぶ場としてのニーズが増しています。また、困難を抱える生徒の自立支援等の面においても、その役割が一層期待されています。

- 中学卒業生の通信制への進学は公立私立ともに大きく増加しており、中农信地区で唯一の多部制・単位制（定時制）、通信制を併設する松本筑摩高校の重要性が改めて認識されました。なお、私立通信制への進学者の急増の背景には、義務教育段階における不登校や発達障がい児童・生徒の増加などが関係しているとの意見も出されました。

- 高校教育においては、生徒の特性に合わせた手厚い指導や学び直しの場も今後必要となるとされており、オンラインを活用した他校併修の拡充、医療機関を始めとした外部機関との連携、個別支援に対応できる相談体制や職員体制の拡充の必要性が確認されました。県立高校においては、これらの役割を担う松本筑摩高校のさらなる充実を要望します。

### (3) その他

- 中学生の夢や希望を叶えるためには、様々な高校を選択できる環境があることが大切であり、高校の学びが均一化、画一化することは決してよいことではありません。各校の特色を明確にし、各校の学びが進路選択や資格取得にどのように結びつくのかを具体的にイメージできるような取組を進めていくことが必要です。

また、いわゆる偏差値に基づく高校選択から各校の学びの特色を中学生や保護者が適切に理解した上で、学びの内容を重視した高校選択に転換していくことができるよう、中学校における進路指導のあり方を高校と連携しながら検討していくことが求められます。

- そのためには、中学校卒業までの間に、居住する地域でさまざまな人・もの・ことと深くかかわる豊かな学びを通じて、「自ら考え、判断し、行動できる力」を高めることが大切です。そして、自分の将来像を描きながら、高校で何を学びたいかを明確にできるように、夢や希望を育む幼保小中高の連続したキャリア教育の一層の充実を図ることが必要であり、このことは、高校での夢に挑戦する学びの実現には極めて重要です。

- この他、これまでの教育システムにとらわれない次元の違うレベルで、世界のトップや世界の最先端と繋がり、全国から長野県の高校で学びたいと思われるような特色のある高校づくりが必要であり、このことに関しては長野県が教育予算にどのように向き合うかという問題と避けては通れないため、教育県を標榜する県の姿勢を見せてもらいたいという意見も出されました。

- また、本地域には公共交通機関が十分に整っていない地域もあり、そのような地域の保護者による送迎等の負担、通学費の負担の問題が指摘されました。これらの課題への早急な対応も求められています。

- なお、今後の少子化の進行は深刻であり、一刻も早く県立高校の再編を進めるべきであるという強い意見があった一方で、拙速な結論を出すべきでないという慎重論もありました。また、県民世論を盛り上げ、公私の枠を越えて長野県全体の高校教育のあり方を引き続き議論すべきであるという意見もありました。県教育委員会には、多様な意見に対して丁寧に対応していただくようお願いいたします。

## おわりに

地域の様々な思いが交錯する中であって、懇話会が高校再編について一つの具体的な方向性を示すことは困難です。本地区の再編整備計画案を具体化する際は、本意見・要望書の内容や懇話会の議論の様子を踏まえ、地域住民や教育関係者の意見に十分耳を傾けていただきたいと思います。

未来の高校生のために、地元と協力して高校改革を着実に進めていただくことを強く要望いたします。

# 旧第 11 通学区 高等学校教育懇話会 開催要綱

## 1 目的

この懇話会は、長野県教育委員会が「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」において示したこれからの高校の学びのあり方等を踏まえ、旧第 11 通学区内の将来を見据えた高校教育について検討し、長野県教育委員会に意見・要望することを目的に開催する。

## 2 構成及び運営

(1) この懇話会は旧第 11 通学区の以下の役職者等により構成する。

- ・市村長
- ・市村教育長
- ・産業界の代表
- ・地域振興局長
- ・PTAの代表
- ・中学校長会の代表
- ・高等学校長会の代表
- ・その他地域の実情に応じた者

(2) 懇話会には座長及び副座長を置く。座長及び副座長は構成員から選ぶものとする。

(3) 座長は、懇話会を招集し、主宰する。

(4) 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときはその職務を代理する。

(5) 座長は、必要があると認めるときは、会議に構成員以外の者の出席を求めることができる。

(6) その他、懇話会の運営に関して必要な事項は、座長が別に定める。

## 3 開催期間及び構成員の任期

この懇話会の開催期間及び構成員の任期は、長野県教育委員会に意見・要望を提出するまでとする。

## 4 議事等の公開

会議は公開とする。ただし、座長の判断により一部非公開とすることができる。

## 5 事務局

この懇話会の運営のために長野県教育委員会と関係市村教育委員会で事務局を設置する。

なお、事務局の役割分担は次の各号のとおりとする。

(1) 県教育委員会 構成員の選任、会議用資料の収集・作成、会議の運営等

(2) 市村教育委員会 構成員の選任、会議の日程調整及び通知発出、会議の運営等

## 附 則

この要綱は令和元年 12 月 16 日より適用する。

旧第11通学区 高等学校教育懇話会 構成員名簿（敬称略）

氏名	区分	役職等	備考
菅谷 昭	市 村 長	松本市長	～R2. 3
臥雲 義尚	市 村 長	松本市長	R2. 3～
小口 利幸	市 村 長	塩尻市長	
宮澤 宗弘	市 村 長	安曇野市長	～R3. 10
太田 寛	市 村 長	安曇野市長	R3. 10～
藤澤 泰彦	市 村 長	生坂村長（東筑摩郡村長会長）	
赤羽 郁夫	市村教育長	松本市教育長（副座長）	～R3. 3
伊佐治裕子	市村教育長	松本市教育長（副座長）	R3. 4～
赤羽 高志	市村教育長	塩尻市教育長	
橋渡 勝也	市村教育長	安曇野市教育長	
根橋 範男	市村教育長	山形村教育長（R元年度東筑摩郡阿村教育委員会連絡協議会長）	
飯森 力	市村教育長	麻績村教育長（R3年度東筑摩郡阿村教育委員会連絡協議会長）	
宮下 敏彦	市村教育長	筑北村教育長	～R3. 1
滝澤 昭文	市村教育長	筑北村教育長	R3. 2～
樋口 雄一	市村教育長	生坂村教育長	
百瀬 司郎	市村教育長	朝日村教育長（R2年度東筑摩郡阿村教育委員会連絡協議会長）	
伊藤 茂	産 業 界	J A松本ハイランド 代表理事組合長	～R3. 5
田中 均	産 業 界	J A松本ハイランド 代表理事組合長	R3. 5～
千國 茂	産 業 界	J Aあづみ 組合長	
平林 正吉	産 業 界	松本機械金属工業会 会長	
降幡 真	産 業 界	長野県建設業協会 安曇野支部長	
井上 保	産 業 界	松本商工会議所 会頭	
中島 芳郎	産 業 界	塩尻商工会議所 会頭	
高橋 秀生	産 業 界	安曇野市商工会 会長	
荒井英治郎	その他地域の 実情に応じた者	国立大学法人信州大学教職支援センター准教授（座長）	
小野 浩美	地域振興局長	長野県松本地域振興局長	～R2. 3
草間 康晴	地域振興局長	長野県松本地域振興局長	R2. 4～
内藤 謙	P T A	松本市PTA連合会 会長	～R2. 3
古屋 勇	P T A	松本市PTA連合会 会長	R2. 4～R3. 3
山本 美帆	P T A	松本市PTA連合会 会長	R3. 4～
鈴木 紳平	P T A	東筑摩塩尻PTA連合会 会長	～R2. 3
渡邊 昭文	P T A	東筑摩塩尻PTA連合会 会長	R2. 4～R3. 3
坂下 和己	P T A	東筑摩塩尻PTA連合会 会長	R3. 4～
北澤 宏和	P T A	安曇野市PTA連合会 会長	～R2. 3
出水 雄二	P T A	安曇野市PTA連合会 会長	R2. 4～R3. 3
向山啓二郎	P T A	安曇野市PTA連合会 会長	R3. 4～
湯本 英俊	中学校長会	松本市中学校長会長（松本市立丸ノ内中学校長）	～R2. 3
藤田 克彦	中学校長会	松本市中学校長会長（組合立鉢盛中学校長）	R2. 4～R3. 3
横田 則雄	中学校長会	松本市中学校長会長（松本市立山辺中学校長）	R3. 4～
村上 啓	中学校長会	東筑摩塩尻中学校長会長（塩尻市立広陵中学校長）	～R2. 3
小林 順一	中学校長会	東筑摩塩尻中学校長会長（塩尻市立塩尻中学校長）	R2. 4～
中村 真市	中学校長会	安曇野市中学校長会長（安曇野市立穂高東中学校長）	～R2. 3
内川 雅信	中学校長会	安曇野市中学校長会長（安曇野市立三郷中学校長）	R2. 4～R3. 3
早川 正美	中学校長会	安曇野市中学校長会長（安曇野市立豊科南中学校長）	R3. 4～
杉村 修一	高等学校長会	松本県ヶ丘高等学校長	
田畑 邦仁	高校長会代表	塩尻志学館高等学校長	～R3. 3
清水 寛	高等学校長会	田川高等学校長	R3. 4～
保坂美代子	高等学校長会	豊科高等学校長	

事務局

市村教育委員会 県教育委員会	松本市教育委員会	塩尻市教育委員会	安曇野市教育委員会
	麻績村教育委員会	筑北村教育委員会	生坂村教育委員会
	山形村教育委員会	朝日村教育委員会	長野県教育委員会

## 旧第11 通学区高等学校教育懇話会 開催経緯

### 【懇話会】

	主な論点 等
第1回 令和元年12月16日(月) 松本合同庁舎 講堂	①「高校改革」の理念の共有方法 ②義務教育と高校の関係 ③普通校と専門校、定時制・通信制の関係 ④私立高校の存在 ⑤教員の質、研修の必要性 ⑥合意形成の図り方
第2回 令和2年10月16日(金) 松本合同庁舎 講堂	①地域との連携強化(公私ともに) ②高校間の連携 ③学びを校外にどう開くか ④キャリアを中軸とした学びの展開 ⑤知識を活用する学び ⑥最先端の学びを支える施設・設備 ⑦子どもたちにとって魅力ある学びとは ⑧子ども視点の環境整備
第3回 令和3年3月16日(火) 安曇野市役所 大会議室	①研究部会からの報告 研究部会Ⅰ(松本市教育長) ・公立高校における情報発信、情報提供 ・私立高校と役割の分担 ・定時制、通信制の充実、セーフティネット ・部活動のあり方 ・地域連携、学校間連携 研究部会Ⅱ(塩尻市教育長) ・高校間連携、中学と高校の連携、接続の在り方 ・ICT教育の重要性 ・特別支援教育の充実、高校における通級教室整備 ・教育界と産業界との連携、コミュニティースクール 研究部会Ⅲ(安曇野市教育長) ・公立高校の役割の明確化、高校間連携 ・少子化の現実を直視した学校数 ・定員割れの現実に対する対応 ・大規模、小規模の高校バランスを考慮 ・総合技術高校に関しては賛成、反対がある。 ②主な意見 ・普通科重視、専門学科軽視ではないか ・教員の在籍年数を伸ばし、魅力ある高校づくりを ・公私の枠を取り払い、全体のあり方を示すべき ・高校の将来像に対する自治体間の温度差がある ・専門教育は探究を中心とする高校教育の大きな柱 ・30年、40年先を見据えた教育の在り方に取り組む ・県立普通校を減らす以外に方法がないのでは ・高校教育と義務教育の連携
	①安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会報告 ②意見聴取の結果について (量的調査) 中高生のWebアンケート

<p>第4回 令和3年5月24日(月) 塩尻市保健福祉センター 市民交流室</p>	<p>小中高PTA役員、高校同窓会役員 (質的調査) 高校生による高校のあり方フォーラム 中学生への対面ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松本市を中心として教育環境が充実</li> <li>・公立と私立の比率を撤廃したらどうか</li> <li>・先生のスキルアップ</li> </ul> <p>③産業界が求める生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制の学びから目をそらせてはならない</li> <li>・中央・地方、大企業・中小企業で違う</li> <li>・地元企業に就職する意欲のある生徒</li> <li>・様々な勉強(リベラルアーツ)をしてきた生徒、考え方の循環ができる生徒を望む</li> <li>・中高生の望みを大事にという割には地域エゴやOBの郷愁が多いのではないか、恐ろしい少子化の再認識を</li> </ul> <p>④PTAの立場から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生を信頼して子どもを預けている</li> <li>・子どもが集められる情報が少ない</li> </ul> <p>⑤論点等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置主体の長野県、長野県教育委員会がもう一步踏み込んだ情報発信と論点整理を</li> </ul>
<p>第5回 令和3年7月29日(木) あがたの森文化会館 講堂ホール</p>	<p>①資料説明(県教育委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度公立高等学校入学者選抜の結果について</li> <li>・募集定員、公私比率について</li> <li>・令和3年度高等学校教育職員人事異動方針について</li> <li>・教員の資質向上について</li> <li>・職業高校の学習環境の整備について</li> <li>・私立高校を含めた県全体の教育のあり方、育てたい人間像について</li> <li>・望ましい学級数と再編の基準について</li> <li>・懇話会のあり方、合同部会について</li> <li>・須坂創成高校について</li> <li>・普通科改革について</li> <li>・合同部会からの報告(まとめ)</li> </ul> <p>②意見要望の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公私比率について</li> <li>・都市部存立普通校の適正規模について</li> <li>・普通校、専門校ともに再編を視野に</li> </ul>
<p>第6回会議 令和3年9月21日(火) オンライン</p>	<p>①資料説明(事前意見 資料1)</p> <p>②意見要望に係る論点整理(資料3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規模の大きさを活かした都市部存立普通校について</li> <li>・私立高校との関係について</li> <li>・探究的な学び、地域連携について</li> <li>・特別支援教育について</li> <li>・施設・整備について</li> </ul>
<p>第7回会議 令和3年11月2日(火) 安曇野市豊科交流学習センター 「きぼう」多目的交流ホール</p>	<p>①報告及び資料説明〔事務局〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生への対面ヒアリングの結果について</li> <li>・全県の進捗状況について</li> <li>・意見・要望書(案)について</li> <li>・事前に寄せられたご意見について</li> </ul> <p>②意見・要望書(案)の検討</p> <p>③意見・要望書の確定及び県教育委員会への提出について</p>

### 【住民説明会】

	塩尻会場	松本会場	安曇野会場
日時	令和2年2月12日(水)	令和2年7月28日(金)	令和2年8月28日(金)
会場	塩尻市保健福祉センター市民交流室	松本合同庁舎 講堂	豊科公民館大ホール
参加者	49名	107名	124名(1回目) 146名(2回目)

### 【研究部会／合同部会】

研究部会	I (松本)	II (塩尻)	III (安曇野)
第1回	11月9日(月)	11月9日(月)	11月20日(金)
第2回	12月21日(月)	12月17日(木)	12月24日(木)
第3回	2月12日(金)	2月9日(火)	2月12日(金)
安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会			3月11日(木)
			4月26日(月)
			5月14日(金)

### 【質的調査】

学校名・対象	調査の概要
松本市立山辺中学校	令和3年4月27日(火) 16:30～17:45 座長、松本市教育長、教育部長、生徒による座談会
塩尻市立塩尻中学校	令和3年5月6日(木) 13:35～14:50 座長、塩尻市教育長、3年全員のグループワーク
安曇野市立豊科南中学校	令和3年5月11日(火) コロナ対応のため延期 令和3年10月12日(火) 16:00～ ヒアリング
高校生	令和3年4月26日(月) 16:15～17:45 オンライン「高校生による高校のあり方フォーラム」 17校(県立13校、私立4校)、生徒32名 信州大学・大学院生、地区内教育長

### 【量的調査 (Webによる調査)】

対象	調査の概要	
中学2・3年生 [Webによる調査]	調査期間	4月12日(月)～5月13日(木)
	調査対象	公立中学校36校 7,232名(2,3年生)
	回答数	33校 5,391名(回収率74.5%)
高校生全学年 (公私、全定) [Webによる調査]	調査期間	4月12日(月)～5月13日(木)
	調査対象	18校 11,238名(県立13校、私立5校)
	回答数	17校 8,645名(回収率76.9%)
小中高PTA役員 高校同窓会役員	調査期間	4月12日(月)～5月7日(金)
	回答数	208名(Web、FAX、メール、郵送)

※生徒数は県立高校4/8、私立高校4/10、公立中学校5/7(あさひ分校、桐分校、波田学院を除く)の数。

旧12通学区別中学校卒業予定者数の予測（2017年～2036年）

長野県教育委員会 高校教育課  
(単位：人)

中学校 卒業年	2017年 H29 H30 (A)	2018年 R1	2019年 R2	2020年 R3	2021年 R4	2022年 R5	2023年 R6	2024年 R7	2025年 R8	2026年 R9	2027年 R10	2028年 R11	2029年 R12	2030年 R13	2031年 R14	2032年 R15	2033年 R16	2034年 R17	2035年 R18 (B)	2036年 R19 (B)	2017年と2036年 との増減 (B)-(A)
1区	320	265	255	265	256	230	233	169	219	216	187	198	200	189	169	172	171	157	141	-179	
2区	1,290	1,188	1,165	1,059	1,084	1,087	1,034	1,050	1,017	1,020	973	984	962	871	886	865	828	775	669	-621	
3区	2,686	2,754	2,582	2,567	2,459	2,460	2,414	2,284	2,336	2,179	2,131	2,017	2,040	1,997	1,942	1,891	1,838	1,740	1,649	-1,037	
4区	1,990	1,962	1,986	1,883	1,875	1,837	1,818	1,703	1,683	1,758	1,651	1,582	1,679	1,561	1,494	1,512	1,410	1,329	1,254	-736	
5区	1,938	1,829	1,799	1,826	1,711	1,708	1,669	1,618	1,662	1,652	1,609	1,566	1,573	1,479	1,399	1,395	1,359	1,302	1,167	-771	
6区	2,047	1,966	1,949	1,874	1,887	1,823	1,800	1,767	1,830	1,723	1,705	1,776	1,667	1,596	1,567	1,601	1,466	1,338	1,378	-669	
7区	1,912	1,940	1,773	1,770	1,788	1,702	1,736	1,630	1,598	1,585	1,563	1,532	1,478	1,487	1,428	1,388	1,298	1,246	1,110	-802	
8区	1,856	1,816	1,823	1,728	1,764	1,731	1,642	1,729	1,579	1,623	1,521	1,535	1,553	1,420	1,448	1,315	1,291	1,281	1,078	-778	
9区	1,715	1,606	1,555	1,560	1,465	1,530	1,434	1,394	1,451	1,403	1,360	1,341	1,256	1,259	1,198	1,182	1,098	1,073	988	-727	
10区	210	214	203	213	190	185	167	195	181	170	156	161	150	142	137	104	125	101	88	-122	
11区	4,226	4,139	4,007	3,854	3,911	3,895	3,875	3,656	3,664	3,611	3,523	3,493	3,545	3,405	3,398	3,220	3,093	3,018	2,735	-1,491	
12区	564	560	533	479	440	459	435	423	412	436	382	368	410	358	333	325	303	303	256	-308	
県全体	20,754	20,239	19,630	19,078	18,830	18,647	18,257	17,618	17,632	17,376	16,761	16,553	16,513	15,764	15,399	14,970	14,280	13,663	12,513	-8,241	

(注1) 2017年～2021年については、それぞれ前年度の学校基本調査による数。

(注2) 2022年～2030年は、2021年度学校基本調査(速報値)による数。2031年～2036年は2021年度長野県人口異動調査(令和3年4月1日現在)による数。

(注3) 3区と4区は独自推計による。

(注4) 松本秀峰中等教育学校(前期課程：11区)、県立歴代附属中(中1～中3)、同舘訪清陵附属中(中1～中3：7区)、市立長野中(中1～中3：3区)の生徒数を含む。

## 令和3年度 旧12通学区別入学者流出入表（全日制）

令和3年度入学者 流出入表

		From 中学校の所属通学区												流入	
旧通学区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	12区	県外	流入	
To 高校 の 旧 通 学 区	1	159	56	20	4	1		1			2	3	7	94	
	2	17	648	295	17	1		1	1		1		1	334	
	3	27	125	1105	325	18	8	2	4	1	12	3	8	533	
	4		5	193	880	47	3			1		1	3	253	
	5		2	5	135	1067	144	1	1		1		3	292	
	6		3	3	4	101	1203	1	2	3		3	7	127	
	7		1	1	2	5	1	1224	100	1	1	97	9	218	
	8			1				13	1081	12		14	2	42	
	9			1					46	1080	1		3	51	
	10			1						2	143	13	7	23	
	11			1	6	1		59	8	2	17	2171	131	5	230
	12	1						1				94	215	9	105
	流出数	45	192	521	493	174	156	79	162	22	19	237	138	64	2302
	流入数	94	334	533	253	292	127	218	42	51	23	230	105		2302
	流入－流出	49	142	12	-240	118	-29	139	-120	29	4	-7	-33		

【参考】

令和2年度入学者 流出入表

		From 中学校の所属通学区												流入	
旧通学区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	12区	県外	流入	
To 高校 の 旧 通 学 区	1	154	66	21	1	1				1		1	6	98	
	2	28	676	325	18		2		1			1	1	376	
	3	43	138	1182	322	21	10	4		2	20	5	4	569	
	4		6	193	959	42	3				1	8	1	254	
	5			7	149	1114	123	1	1		1		4	286	
	6		1	9	6	130	1275		2	1	5		4	158	
	7			1		3	2	1224	98	2	105	1	5	217	
	8				1			22	1097	21		4	1	49	
	9							1	50	1172		2	2	55	
	10			1				2	4	1	162	15	1	18	42
	11			6	1		1	57	10		12	2103	147	8	242
	12		1	1				1	1	1		126	205	13	144
	流出数	71	212	564	498	197	142	88	167	29	13	286	156	67	2490
	流入数	98	376	569	254	286	158	217	49	55	42	242	144		2490
	流入－流出	27	164	5	-244	89	16	129	-118	26	29	-44	-12		

【参考】

平成31年度入学者 流出入表

		From 中学校の所属通学区												流入	
旧通学区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	12区	県外	流入	
To 高校 の 旧 通 学 区	1	167	60	26	5							2	3	96	
	2	26	758	345	11	1				2			1	386	
	3	27	155	1155	390	5	5	1			14	6	6	609	
	4	1	4	232	905	48	2					8	3	298	
	5			1	140	1132	125						8	274	
	6	1	1	6	10	108	1380	4	1	1		5	6	143	
	7				3	1	4	1178	105	1	1	123	1	1	240
	8							15	1188	21	1	17		2	56
	9			2			1		53	1158		3		2	61
	10							3	5		138	12	1	16	37
	11			3	3		1	45	11		25	2275	170	14	272
	12			2		1	1		1			134	243	23	162
	流出数	55	220	617	562	164	139	68	176	25	27	316	180	85	2634
	流入数	96	386	609	298	274	143	240	56	61	37	272	162		2634
	流入－流出	41	166	-8	-264	110	4	172	-120	36	10	-44	-18		

## 合同部会 報告【まとめ】

「安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会（以下、合同部会）」は、“一定の結論を出すものではない”という前提で開催されたが、少子化の加速や定員割れの状況という現実から目をそらしてはならず、合同部会の場合でも次世代に対して責任ある議論を積極的に行うべきであるとの意見もあった。合同部会では、次のような議論が行われた。

第1回目の合同部会では、県教育委員会事務局から、安曇野・大北地区（以下、本地区）における少子化の状況説明、これからの産業教育に求められる専門分野の融合・協働の必要性の確認、総合技術高校の説明等がなされた。

次いで、第2回目の合同部会では、県教育委員会事務局から令和3年3月公表の「第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理（中高一貫校・総合技術高校 増補版）」では、総合技術高校は「産業構造の変化や技術革新に柔軟に対応することができる有効な選択肢であるため、今後も配置を推進する。」と記載されているとの説明がなされた。また、県内の総合技術高校3校（①須坂創成高等学校、②佐久平総合技術高等学校、③飯田OIDE長姫高等学校）について各学校から成果と課題が示され、これからの時代の産業教育における総合技術高校の優位性ととも、高い専門性を担保しながら地域に根差し、地域と連携した探究学習等を実践していること、高等教育機関への進学者が増えていること、地域の評価や期待が高いこと等の説明がなされた。これらの説明を踏まえ、本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めた。

なお、少子化の状況を鑑みてスピード感を持って一刻も早く進めていくべきである、本地区の専門高校3校はすでに地域連携や高い専門性を追求する学びが展開できているため総合技術高校を新たに設置する必要はない、機が熟していない、地域の枠を越えて安曇野エリアを一体として捉えるべきである、先行事例が抱える課題を踏まえて2キャンパスにはならない、私立高校との関係を考慮した議論を展開すべきである、都市部存立普通校に対する改革も不可避である、子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯に向き合い丁寧なフォローアップをしていくべきである、10年後・20年後を見据えた責任ある意思決定が必要である、などの重要な意見が出たことも申し添えておく。

今後の論点としては、①総合技術高校を設置する場合に生じる様々な課題（通学区問題、情報提供など）に対する方策を具体的に検討すべきこと、②子どもや保護者に対する積極的な情報提供を行い、中学生や保護者に選ばれる高校となるための方策を考えること、③本地区の専門高校を統合し総合技術高校を設置した場合には高校がなくなる地域が出てくるのが想定されるため、地域住民の理解を得るための方策を検討すべきこと、④旧第11通学区高等学校教育懇話会における住民説明会、研究部会及び合同部会で提起された多面的・多角的な論点に真摯に対応しながら進めていくべきであること等が挙げられた。

旧第11通学区の「旧第11通学区高等学校教育懇話会」、旧第12通学区の「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」では、合同部会の本報告を踏まえた議事運営を期待する。

「都市部存立校」と「中山間地存立校」について

2021年（令和3年）5月1日現在

通学区	旧12通学区	都市部存立校		中山間地存立校
		都市部存立普通校	都市部存立専門校	
1	1			飯山 下高井農林
	2	中野立志館 中野西 須坂東 須坂	須坂創成	
	3	長野吉田 長野 長野西 長野東	長野商業 長野工業	北部
	4	長野南 篠ノ井 屋代 屋代南	更級農業 松代	坂城
2	5	上田 上田染谷丘 上田東	上田千曲	丸子修学館
	6	小諸 岩村田 野沢北 野沢南	小諸商業 佐久平総合技術	蓼科 軽井沢 小海
3	7	諏訪清陵 諏訪二葉 下諏訪向陽 岡谷東 岡谷南	諏訪実業 岡谷工業	富士見 茅野
	8	伊那北 伊那弥生ヶ丘 赤穂	上伊那農業 駒ヶ根工業	辰野 高遠
	9	飯田 飯田風越	飯田 OIDE 長姫 下伊那農業	松川 阿智 阿南
4	10			蘇南 木曾青峰
	11	塩尻志学館 田川 松本県ヶ丘 松本美須々ヶ丘 松本深志 松本蟻ヶ崎 豊科	松本工業 南安曇農業 穂高商業	梓川 明科
	12			池田工業 大町岳陽 白馬

注) 「都市部存立校」と「中山間地存立校」の考え方は、全日制高等学校を対象としており、多部制・単位制及び定時制高等学校は含まれていない。